

公民館でまちを イキイキ！

地域で考え行動する公民館機能活性化事業
成果報告書



はじめに

公民館は、人口減少や少子化、高齢化などが急激に進行する中、地域の課題解決を支える人財を育成し、異世代間の人財をつなぐ、地域コミュニティの拠点として、これからも重要な役割を担うものと考えています。

県教育委員会では、新たな『青森県教育施策の方針』と『青森県教育振興基本計画』に基づき、「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」を目指し、各種施策・事業を実施し、特に重点的に取り組む施策の柱の一つに「人づくりを通じた地域コミュニティの活性化」を掲げ、公民館が本来持つ機能、「集う・学ぶ・つなぐ」を活性化し、公民館を地域の人財育成の拠点として継続的に機能させるために、その一環として昨年度から「地域で考え行動する公民館機能活性化事業」を実施しました。

そして、今年度、公開コンペにより選出された公民館の職員や地域の住民の方々が中心となって組織された実行委員会により、地域の特性や課題に応じたさまざまな事業が、県内各地域の公民館等において行われました。

本冊子は、各実行委員会の取組の概要・成果などをまとめたものであり、また、公民館を地域の人財育成の拠点として継続的に機能させるための一助となるような人財育成に関するプログラム等も掲載しておりますので、県内の各公民館や地域活動に取り組んでいる方々の参考になれば幸いです。

結びに、本事業に携わっていただいた県公民館連絡協議会、選考委員の皆様、本冊子の作成に御協力いただいた各実行委員会の皆様に心から感謝申し上げます。

平成27年3月

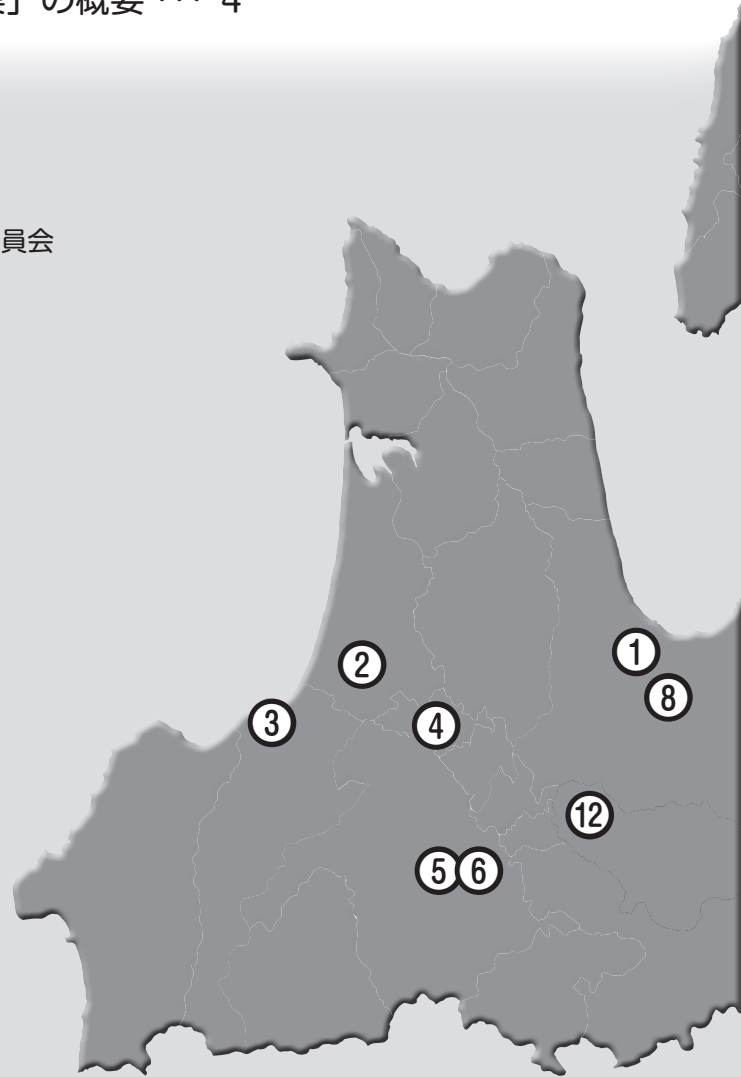
青森県教育庁

生涯学習課長 中野 聖子



- 1 はじめに … 1
- 2 「地域で考え行動する公民館機能活性化事業」の概要 … 4
- 3 モデル実践プラン事業成果報告書 … 6

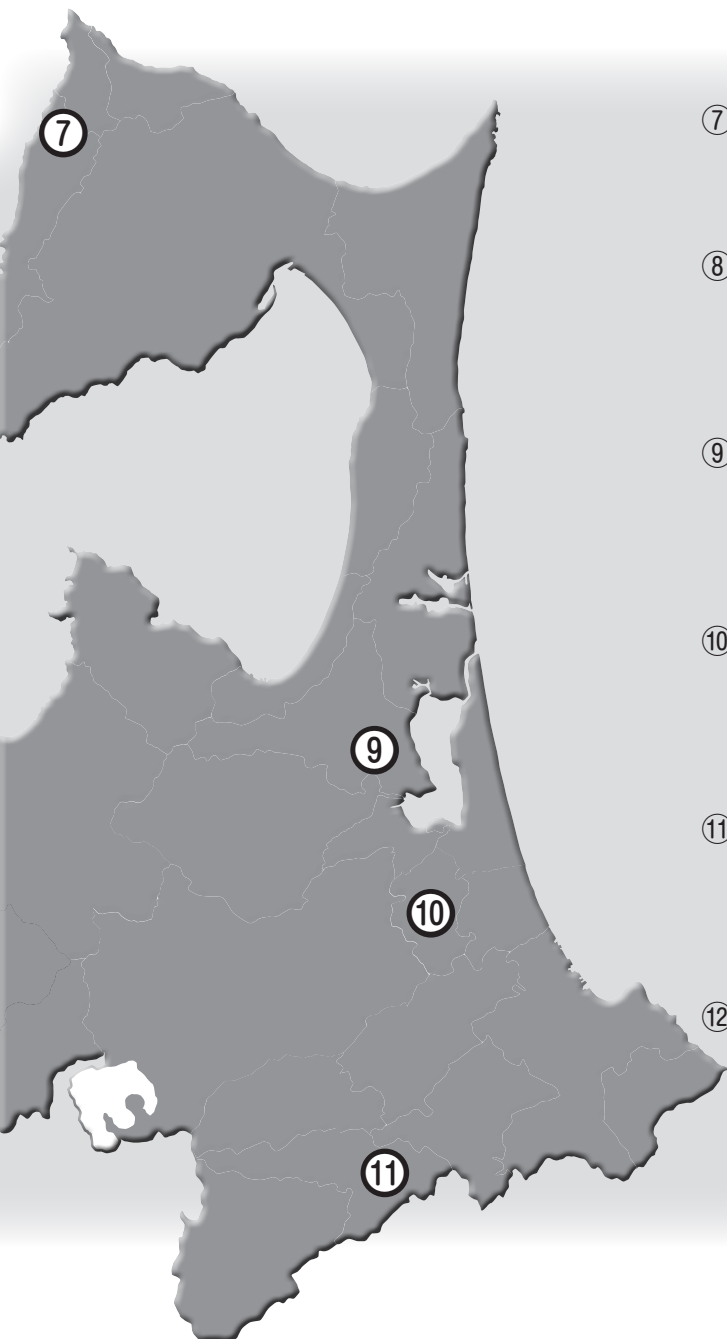
- ①西部ドレミファ・プロジェクト … 6
音楽を通じた学びと地域の絆づくり事業実行委員会
(青森市西部市民センター)
- ②MATSUぷろじえくと … 10
MATSUぷろじえくと実行委員会
(つがる市生涯学習交流センター「松の館」)
- ③和つつながれあじがさわ … 14
鱒ヶ沢町公民館事業実行委員会
(鱒ヶ沢町中央公民館)
- ④キャンドルナイトでつながろう
in 津軽富士見湖 … 18
鶴田町公民館事業プラン実行委員会
(鶴田町公民館)
- ⑤津軽藩参勤交代で江戸城へ!! … 22
北地区コミュニティ会議
(弘前市立中央公民館)
- ⑥ジャンボおらほのいろはカルタ
～弘前～ … 25
ジャンボおらほのいろはカルタ弘前実行委員会
(弘前市立中央公民館)



4 公民館のための人財育成プログラム … 52

- 講座1 公民館を知る … 53
- 講座2 地域を知る … 55
- 講座3 企画書にまとめる … 56
- 講座4 学習プログラムを企画立案する … 58

次



- ⑦ちびっ子海賊の佐井村まち探検・・・29
佐井村中央公民館事業プラン実行委員会
(佐井村中央公民館)
- ⑧地域に広げよう！
ハッピーコミュニケーション・・・32
あおりハッピーコミュニケーション塾実行委員会
(青森市荒川市民センター)
- ⑨東北 techno music festival
清水目音夜祭2014・・・36
上十三若者ネットワーク「9根」
(東北町中央公民館)
- ⑩ものづくり体験を通して
地域住民の交流の和を広げる・・・40
六戸町地域づくり実行委員会 with かえで組
(六戸町文化ホール)
- ⑪手作りの11ぴきのねこによる
町民活性化事業・・・44
三戸町民活性化実行委員会
(三戸町中央公民館)
- ⑫子ども達に残したい、ふるさとの自然と歴史財産
～地域ふれあいハイキングを通して～・・・48
六郷地区振興協議会
(黒石市立六郷公民館)

- 講座5 学習方法の選択・・・・・・・・・・60
- 講座6 アイスブレイク・・・・・・・・・・63
- 講座7 思いを伝える（プレゼンテーション）・・・64
- 講座8 自ら人財を育成する・・・・・・・・・・66

「地域で考え行動する公民館機能活性化事業」の概要

1 趣旨

公民館の本来の機能（集う＜人財の発掘＞、学ぶ＜人財の育成＞、つなぐ＜人財のネットワーク化＞）を活性化させるため、公民館職員の資質向上及び地域住民の地域づくりに向けた意識涵養を図る研修を実施するとともに、公民館と地域住民、市町村職員等との協働による実践的な研修（学びと活動の循環）を通して、公民館職員、地域住民双方の実践的なスキルアップを目指す。

また、長期的な展望に立った、地域の人財育成プログラムを開発・提示し、公民館と地域住民、市町村職員等との協働による継続的な地域づくり活動を促す。

2 主な取組内容

(1) 平成25年度

- ・ 公民館機能の活性化に向けた機運を醸成するためのフォーラムの開催
- ・ 公民館職員・地域住民を対象とした地域課題や事業企画に関する研修
- ・ 研修等を通じて組織された実行委員会が企画した事業プランの公開コンペ実施

(2) 平成26年度

- ・ 公開コンペで選出された12事業プランを実施する実行委員会への助成金の交付
- ・ 12事業プランの事業成果発表会の開催
- ・ 12事業プランの概要と人財育成に関するプログラムを掲載した冊子の作成
- ・ 各事業プランの実践状況を収録したDVDの配布とインターネットによる配信

公民館を活用して、まちをもっとイキイキと!

「地域で考え行動する公民館機能活性化事業」がはじまります。

公民館は、住民の皆さんが集まり、学び、つながる場です。県では、地域住民の方々が公民館の力を活用してまちをもっとイキイキさせる活動を応援します。

子どもたちとお年寄りが交遊できるような場を作れないかな?

子どもたちが、みんなで集まっていろいろな体験活動ができる場所を作れないかな?

ごんな陣には公民館の出陣です! 公民館の機能を活用してこんなことができます...

事業内容

キックオフフォーラムの開催(6/22)

公民館でどんなところが、何が出来るの? などについて、公民館職員と地域住民の皆さんが一緒に考えます。どなたでも参加できます。
 開催場所: 県総合社会教育センター

事業プランをつくります

地域課題解決に向けた事業プランを企画応募します。

●事業プランの企画
 地域住民の皆さんと公民館職員による実行委員会を組織して、公民館の力を活用した事業プランを企画します。

●公開コンペの実施(11/30)
 事業プランを応募し、公開コンペでプレゼンテーションをします。

事業プランを実施します(平成26年度)

公開コンペで選出された事業プランは、各教育事務所によるブラッシュアップ研修を遂げたのち、平成26年度に助成金を受けて、各実行委員会により各地域で実践していただきます。

研修で学ぶこともできます

地域課題の解決方法や事業プランの企画方法などについて学ぶことができます。

●公民館の力活用住民講座(8月～9月)
 ▶対象: 地域住民
 ▶県内6地区で各2回開催

●公民館の力活用プランナー講座(5月～10月)
 ▶対象: 公民館職員等
 ▶県総合社会教育センターで年4回開催

詳しくは青森県教育委員会ホームページ [公民館機能活性化事業](#) 検索

☎ 生涯学習企画振興グループ TEL 017-734-9888

平成25年5月発行「教育広報あおもりけんvol.29」より

3 事業プラン実施の成果等

12実行委員会の取組の成果を公民館の3つの機能により整理しました。

○集う <人財の発掘>

- ・講座の参加者や公民館を拠点として活動する各種サークルなどに声をかけ、企画段階から参加してもらうことで人財の発掘につながる。
- ・地域の文化や歴史を取り上げることは、住民の地域理解と地域での交流につながる。また、地域の様々な事業へ参画しようとする機運の醸成にもつながる。

○学ぶ <人財の育成>

- ・公民館職員がサポートすることによって、これまで住民だけでは出来なかったことを実現することができ、住民の自信につながる。
- ・イベントの企画運営にあたって、講師やスタッフが集い意見を出し合いながら準備を進めることにより、スタッフのスキルアップとなる。
- ・PDCAのマネジメントサイクルを意識して事業を企画することが、事業の継続と自身の成長につながる。

○つなぐ <人財のネットワーク化>

- ・地域の各種団体や行政、学校等と連携して事業を行うことにより、地域の団体間のネットワークが形成されるだけでなく、人的なネットワークが生まれる。
- ・公民館祭り等の機会を活用してイベント等を開催することによって、公民館を利用している団体や地域のシニア世代との交流の機会になる。

また、事業運営の参考となる下記のヒントを得ることができました。

○子どもを対象とする場合

- ・郷土の歴史、文化や自然に触れられる内容にする。
- ・働いている親や子どもが参加しやすいように土日の開催とする。

○成人を対象とする場合

- ・日中働いている人も来ることができる時間帯を設定する。
- ・男女（夫婦）で参加できる講座を開設する。

○子育て世代を対象とする場合

- ・託児所を設ける。または、親等を対象とした講座と同時に裏番組として子どもを対象とした事業を準備する。
- ・父親に子育てに参画することの重要性を理解してもらうような内容にする。

○PR方法

- ・マスコミへの積極的なアピールのほか、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）をうまく活用することで、より広く、興味のある人への情報提供ができる。

1

西部ドレミファ・プロジェクト

音楽を通じた学びと地域の絆づくり事業実行委員会

活動の中心となる公民館：青森市西部市民センター

1 プランのねらい

地域で昔から育まれてきた住民同士の強いつながりが失われないように、高齢化・固定化してきた地域コミュニティの担い手に若手世代や新たな人たちを巻き込み、次の世代へスムーズに引き継いでいくため、各世代・異世代間の仲間づくりの事業を行う。

具体的には音楽を用いたワークショップと交流事業を半年の期間をかけて行い、各世代の横の絆、異世代間の縦の絆をじっくりと深めて、西部地域コミュニティを活性化していくことを目指す。

2 プランの工夫点

地域の住民の交流の場である西部市民センターにおいて、まず“共通の音楽活動”を取り入れた様々なワークショップを各3～6回行う中で参加者同士に仲良くなってもらう（各世代での仲間づくり）。その後、市民センターまつりで“共通の音楽活動”を用いたステージ発表とカフェ運営を行うために、受講者と講師陣・スタッフが集い意見を出し合いながら準備を進めて、交流事業を実施する（異世代間の仲間づくり）。この事業に関わる人々の絆を深めるために、誰もが親しみやすく取り組みやすい音楽をツールとして使用する。

3 実行委員会の組織

委員長：子育て支援・障がい児者支援団体スタッフ、音楽教室主宰

副委員長：NPO法人副代表、青森市子ども・子育て会議委員

委員：子育て支援団体スタッフ、民生委員、青森市子ども・子育て会議委員、主婦、
市民センター職員

事務局：市民センター職員

4 取組内容

- (1) マタニティ交流会
- (2) ドレミ・ファ・English
- (3) ヒップホップ・ダンス
- (4) ジャンベ演奏
- (5) カラダにやさしい料理
- (6) 頭と体のカンタン歌体操
- (7) 交流事業

5 実施状況

1 マタニティ交流会

●6月2日～9月1日

【内 容】同室託児をする中、お母さん対象のプチ講座（第1回ヨガ、第2回アロマ、第3回わらべうた）を行い、その後講師を囲んでの情報交換茶話会を行った。

【回 数】全3回

【対 象】妊婦さん、赤ちゃん親子

【会 場】西部市民センター和室1・2

【講 師】小俣真紀・蝦名富貴子・子育て支援グループもも（棟方千恵子）



Point

ヨガは「すっきりした」アロマは「安全な虫よけスプレーが作れ、散歩の際も安心」わらべうたは「ぐずった子どもに歌ってあげると良さそう」などの感想があり、茶話会の乳幼児にもやさしい手作りのお菓子も好評だった。参加者は回を追うごとに気持ちがほぐれ、隣り合った数名ずつで自然に話が弾んでいる様子があった。

2 ドレミ・ファ・English

●6月3日～9月16日

【内 容】子どもの歌やリズムに合わせた身体表現などリトミック活動を行いながら英語を学んだ後、保護者も交えて茶菓子を提供しながら交流した。

【回 数】全6回

【対 象】未就学児

【会 場】西部市民センター和室1・2

【講 師】KISSA KIDS



Point

「音楽に合わせて子どもも自分も楽しく英語に親しめた」「なかなか積極的になれない子どもにもものびのびした雰囲気良かった」「小さいうちから耳に親しむことは大事だ」などの感想があった。保護者には若い方から年配の方までいて、交流時には子育て、孫育て、習い事、幼稚園などの話題で仲良くなっていった。

3 ヒップホップ・ダンス

●6月1日～10月5日

【内 容】ヒップホップの基本的なステップを学び、オリジナルの振付けにも挑戦した。

【回 数】全6回

【対 象】小・中・高校生

【会 場】西部市民センターサークル活動室

【講 師】坂牛大希



Point

小～高校生を対象にしたが、集まったのは近隣の小学生が中心だった。同年代の子どもだったため、ヒップホップは初めてでもまとまりよく練習に励めた。「講師のウッシーが面白くて楽しめた」「レッスンに遊びも入っていて良かった」などの感想があった。ダンスの振付けを子ども同士で教えあう、ステージに着る衣装を考えるといった積極的な様子が見られた。

4

ジャンベ演奏

●6月1日～10月5日

- 【内 容】 アフリカの打楽器“ジャンベ”の演奏法を学び、市民センターまつりで演奏する曲のリズムパートを練習した。
- 【回 数】 全6回
- 【対 象】 小・中・高校生
- 【会 場】 西部市民センタースタジオ
- 【講 師】 Ryu Takenaka



Point

参加者募集時は「バンド演奏」で募ったが希望者がいなかったため、講師の了解を得て、より取り組みやすい楽器演奏として打楽器ジャンベのワークショップで再募集した。実際に参加したのは小学生のみで「本物のジャンベで練習できておもしろかった」「リズムを組み合わせるのが難しかった」などの感想があった。

5

カラダにやさしい料理

●6月4日～9月3日

- 【内 容】 マクロビオティックの考え方を取り入れながら、地元の旬の素材を生かしたメニューの調理法を学び、試食した。
- 【回 数】 全3回
- 【対 象】 18歳以上
- 【会 場】 西部市民センター調理室
- 【講 師】 ベジ☆らぶ



Point

「野菜の切り方や重ね方の豆知識が参考になった」「肉や魚を使わない野菜中心のメニューとはいえ、ボリュームたっぷり満足した」などの感想があった。“カラダにやさしい＝調理が面倒”というイメージが払拭される内容だったため、家庭での調理に取り入れようとする参加者が多くいた。

6

頭と体のカンタン歌体操

●6月6日～9月19日

- 【内 容】 音楽を使って頭と体のエクササイズを行いながら、脳の活性化・運動機能の維持向上を目指した。
- 【回 数】 全6回
- 【対 象】 50歳以上
- 【会 場】 西部市民センターサークル活動室
- 【講 師】 実行委員



Point

50代後半～80代の方まで参加した。普段からカラオケやダンスなど音楽に親しんでいる方が多かったようだが、上手に演唱するのが目的ではない今回のワークショップを楽しみ、普段は手にしない楽器の演奏も新鮮な様子だった。地域の婦人会等の活動をされている方もいて、独居の高齢者宅を訪問する際にやってみる、といった波及効果も見られた。

7 交流事業

- リハーサル：9月13・27日
- 本番：10月12日（市民センターまつり）

【内 容】 ワークショップで取り組んだ各世代共通の音楽を歌とダンスでステージ発表した。また「ドレミファ・カフェ」を運営した。

【回 数】 リハーサル含め全3回

【対 象】 ワークショップ参加者・講師・実行委員

【会 場】 西部市民センター



Point

ワークショップで得た成果を活かしながら、参加者全員が交流できるように、準備のための集まりを2回設定した。リハーサルでは参加者の自己紹介、共通の音楽「幸せなら手を叩こう」「きらきら星」の練習、ドレミファ・カフェの看板や調理品等の準備を行った。本番の市民センターまつりでは、23名が成果発表のステージに、15名がドレミファ・カフェの運営に関わった。

6 事業の成果

《共通のツールで世代・異世代間交流》

ワークショップはそれぞれ楽しく取り組める内容で、新しい事を学ぶと同時に参加者同士の交流も深めることができた様子だった。そこで生まれた横のつながりを異世代間の縦のつながりに広げていくために、少しの練習や打合せでも一緒に行える共通の音楽活動はとても適したツールだったと思われる。料理講座の参加者が作った調理品を子どもたちが店員役となり販売する姿もほほえましかった。

普段から西部市民センターを利用しているシニア世代の方たちが、近隣の子どもやお母さん達と触れ合う機会となったこの実践プランを、今後も何らかの形で継続していく事ができれば、さらに地域活性に貢献できるのではないかとと思われる。

2

MATSUぷろじえくと

MATSUぷろじえくと実行委員会

活動の中心となる公民館：つがる市生涯学習交流センター「松の館」

1 プランのねらい

つがる市生涯学習交流センター松の館を拠点に、子育て世代の私たちの視点にたった事業を実践することで、より身近なつどいの場、学びの場を提供し、活動拠点でもある松の館がこれまで以上に住民にとって身近なものになるような雰囲気作りを私達自らが行う。また、集大成として、事業で得た学びの発表の場、地域でがんばる方々を応援することで地域の良さ、人と人とのつながりのすばらしさを再発見し、意識することができるような市民参加型の世代間交流事業を開催する。そして、地域全体で子育てしやすいまちづくりを目指す。

2 プランの工夫点

より多くの方々に参加していただけるように、参加しやすい雰囲気作りを心がけた。身近な方々に講師になっていただいて講座を行ったり、おしゃべりなどのコミュニケーションや情報交換をしたりできる場を設けた。ここから得た情報やつながりをこの事業の集大成でもある『つながる！つがる笑顔まつり』へとさらにつなげた。

また、情報発信や宣伝として、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）や折込広告など、様々な取組を行った。

3 実行委員会の組織

会 長：子育てサークル代表

副会長：子育てサークル副代表

委 員：つがる市社会教育委員、つがる市男女共同参画委員、社会福祉協議会職員、
つがる市教育委員会職員

事務局：子育てサークル「mama sun Angels」

4 取組内容

- (1) mama'sカフェ
- (2) 松の館を彩ろう！
- (3) そとヨガ
- (4) 親子ヨガ
- (5) つながる！つがる笑顔まつり

5 実施状況

1 mama'sカフェ

- 【内 容】 プチ講座の開催。おしゃべりの場。
 【回 数】 毎月第2、第4水曜日（全18回）
 【対 象】 子育て中のママ他
 【会 場】 松の館 和室
 【講 師】 実行委員または外部講師
 【連携先】 mama sun Angels
 【事業内容】 宝地図を作ろう・曼荼羅アート体験・小箱作り・キラキラヘアピンを作ろう・デコスイーツ体験・料理教室・ハロウィンパーティー、クリスマスパーティー



Point

ママ達のやってみてほしい!と思ったことにチャレンジ!小さい子どもと一緒に大丈夫のように広い和室で行った。また、参加者自身が講師に。趣味や特技を發揮していただいた。

2 松の館を彩ろう!

●5月17日～12月13日

- 【内 容】 季節に合わせたロビーの飾りつけ
 【回 数】 全4回
 【対 象】 地域住民
 【会 場】 松の館 ロビー
 【連携先】 木造保育所・mama sun Angels
 【事業内容】
 ・5月17日「みんなでおさんぽ」
 ・7月26日「花火&海」
 ・10月18日「ハロウィンパーティーの準備をしよう」
 ・12月13日「クリスマスキャンドル作り&飾り付けをしよう」



Point

ロビーで行ったことにより、通りがかった飛び入り参加の子どもたちも多数いた。大人も子どもも一緒になって作った作品は、来場者にも好評だった。(大人の方が夢中になっていたかも!)

3 そとヨガ

●8月29日～8月30日

- 【内 容】 つがる市の祭り「馬市まつり」に合わせて外でヨガを行う。
 【回 数】 全2回
 【対 象】 地域住民
 【会 場】 みどり公園（松の館裏）
 【講 師】 古坂和歌子
 【連携先】 mama sun Angels



Point

いつもと場所を変えて、清々しい青空の下、ヨガを行った。「馬市まつり」にあわせて行い、活動の宣伝もできた。

4

親子ヨガ

●9月24日

- 【内 容】 様々なヨガのスタイルに挑戦。
赤ちゃんと一緒にできるヨガを行う。
- 【回 数】 全1回
- 【対 象】 親子（乳幼児とママ）
- 【会 場】 松の館 和室
- 【講 師】 古坂和歌子
- 【連携先】 mama sun Angels



Point

親子のコミュニケーションを取りながら、リラックス、リフレッシュができる親子ヨガ。ママ友の交流もできた。

5

つながる! つがる笑顔まつり

●11月29日

- 【内 容】 これまでの事業の集大成として、様々な分野で活躍する方々に発表・発揮の場を提供すること、そして、来場された方々の学びやつながりのきっかけを与え、このイベントに参加した全ての方々が笑顔で元気になる市民参加型イベント
- 【回 数】 全1回
- 【対 象】 地域住民
- 【会 場】 松の館 交流ホール
- 【講 師】 つがる市、つがる市近郊の作家など
- 【連携先】 保育支援センター・東北電力・つがる絆プロジェクト



【事業内容】

①ショップブース

親子でできるワークショップやハンドメイドのブースが18ブース出店。東北電力も飛び入り出店した。保育支援センターの協力で託児コーナーも設け、多くの方に楽しんでいただいた。

②パフォーマンスライブ

つがる市でも活躍する6組のパフォーマーがステージを盛り上げた。平均年齢75歳から5歳のキッズダンサーまで、幅広い世代のパフォーマンスを披露した。

③ヨガ体験

誰でも簡単にできるヨガの体験を行った。飛び入り参加の方も楽しくヨガ体験した。

④インドネシア料理教室

つがる市在住の方に母国インドネシアの料理教室を行った。試食会では長い行列ができた。

⑤ようかい体操第一をみんなでおどろう!

つがる市でも活躍するPKJのみなさんの指導で大人気の『ようかい体操第一』を踊った。

⑥その他

折込チラシや参加者がそれぞれブログ等で発信してくれた。

同じ事業をする鶴田町公民館事業プラン実行委員会や鱒ヶ沢公民館事業実行委員会も参加、応援に駆けつけてくれた。



これまでの活動でできたつながりと新たなつながりがどんどん広がり、私達の想像をはるかに超えたイベントになった。何より、私達のモチベーションが向上した！

次回開催に向け、これからが本当のスタートと動き始めています！

6 事業の成果

《イベントを通じて新たなつながりが広がる》

これまで関わってきた地域団体とのつながりをさらに深めるとともに、そのつながりから新たなつながりを持つことができた。

仲間作りを大事にしたことで、紹介の紹介などで、私たちが意図するつながる市に関わる方々の参加が大半であったこと、数少ない発表・発揮の場を作ることができた。

3、4人の委員が中心となって、企画・運営を行ったことで、少人数でもできる自信と次へつながる意欲になった。

公民館職員と協力しながら、市民の力で今までできなかったことを行うことができた。想いをカタチにできた楽しさ、すばらしさを知った。



3

和とつながれあじがさわ

鱒ヶ沢町公民館事業実行委員会
活動の中心となる公民館：鱒ヶ沢町中央公民館

1 プランのねらい

少子化により地域内の母親の交流が少なく、また祖父母世代と親世代のつながりが希薄なため信頼関係が構築されていない、という課題を抱えている。そこで、地域にある公民館を活用し交流を深め、子育てや子どもを見守る安全・安心な環境を創る。

また、紙相撲大会を実施することにより、地域間交流のみならず世代間交流を図る。

2 プランの工夫点

子育て中の人、そうでない人も、町民みんなが参加できるように、交流の場を提供し、地域や世代を超えてつながることができるように工夫する。

町内にある5つの公民館を活用することにより、町民の公民館利用の促進につなげていく。

また、「地域の子育て」の意識を高める。

3 実行委員会の組織

会 長：社会教育委員

副会長：公民館職員

委 員：読み聞かせグループ、子育てグループ、民生委員主任児童委員等

事務局：鱒ヶ沢町中央公民館

4 取組内容

- (1) 子育てスッキリアップ講座
- (2) 火起こし体験
- (3) 孫育てバンザイ！
- (4) 大紙相撲大会
- (5) 郷土料理教室

5 実施状況

1 子育てスッキリアップ講座

●5月31日

【内 容】 子育てに対する不安や悩みの軽減を図るあおもり親楽プログラムを利用した講座の開催。

【対 象】 子育て中の父母

【会 場】 鳴沢公民館

【講 師】 あおもり家庭教育アドバイザー弘前大学大道芸サークル「Mocha」

【連携先】 青森県教育委員会生涯学習課



Point

親楽に参加した保護者が話し合いに集中できるように、託児に楽しいイベント（バルーンアート）を用意した。自由な雰囲気での話し合いができるよう、グループ分けの仕方にも配慮した。参加者のアンケートの中には、「楽しかった」「いろいろな意見が聞けてよかった」「子育ての悩みを話せて楽になった」「子育ての参考になった」などの感想が多くあった。参加された方々が、子育てを客観視する、気づきと共感が生まれた。

2 火起こし体験

●8月10日

【内 容】 親子共同の作業を通して、一つのことを成し遂げることの達成感をあじわい、親と子の絆を深めるため、イカ捌きと火起こしの体験を実施。

【回 数】 1回

【対 象】 小学生の親子

【会 場】 赤石公民館

【講 師】 豊田雅彦・菊谷尚久 【連携先】 県立郷土館・西海自然塾



Point

親子で協力し合い、楽しい時間を共有できるプログラムにした。保護者の方に、子どもたちが成長する過程で、自信や自立心を育てるためには、様々な体験が必要であることを伝えられた。保護者間の仲間作りができた。

3 孫育てバンザイ!

●9月5日・26日

【内 容】 祖父母を対象に今どきの子育てを知り、新しい情報を共有する講座の開催。

【回 数】 2回

【対 象】 祖父母

【会 場】 中村公民館

【講 師】 藤本裕子・中嶋真優美

【連携先】 トラントネットワーク新聞社、鱈ヶ沢町母子支援センター



Point

初回には、現代の子育て事情や孫への接し方などを座学で学び、2回目は子育ての今昔の変化について、実際に体験し学ぶ機会とした。

体験を取り入れたことで、子育ての今昔を比較した講話により、子育ての情報は変化していることを実感してもらうことができた。

4 大紙相撲大会

●11月30日

【内 容】 地区公民館を中心にした異世代間の交流と5つの地域間の交流を図るための大紙相撲大会。

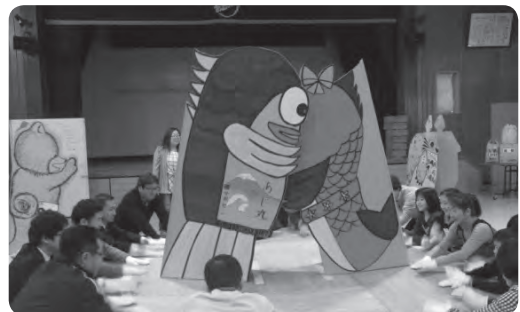
【回 数】 1回

【対 象】 年少から一般の方

【会 場】 山村開発センター

【講 師】 上野巨理

【連携先】 子育てグループ「ランドセル」



Point

紙相撲を広く地域に浸透させ地域に根ざした活動にするため、例年行っている紙相撲大会と合わせて、等身大の大紙相撲大会を行う。午前から午後までの長時間となるため、子ども達が飽きないよう、プログラム進行の計画を綿密にたてスムーズに行うことができた。初めての大会は、子どもだけでなく、想像以上に大人が楽しんでいた。

5 郷土料理教室

●12月17日

【内 容】 郷土料理を若い世代に伝え、子どもたちへ繋ぐとともに、異世代間の交流を図るための料理教室

【対 象】 一般の方

【会 場】 舞戸公民館

【講 師】 工藤道代

【連携先】 食生活改善推進員



Point

年末も近い時期であったため「けの汁」「イカめし」といった、馴染み深い献立をあえて選んだ。同じ材料でも、グループごとの個性が出て、異なる味に仕上がりが楽しめた。講師や協力者の方々と、20～50代の参加者で、世代間交流ができた。

6 事業の成果

《ママ友の構築と世代間の交流を図り、子育てしやすいまちに》

これまで関わってきた地域団体とのつながりをさらに深めるとともに、そのつながりから新たな5つの地区公民館を使用したことにより、町内の方々に各公民館をアピールすることができた。

ママ友の構築と世代間の交流が図れた。各家庭においても、祖父母世代と親世代の会話のきっかけになれたと推測できる。また、孫育て講座を実施した事により、地域の方々が少子化への危機感を抱き、地域の子育てへの意識が向上した。「子どもは地域の宝、地域の子どもは地域で育てる」を推進し継続事業としていくことが決定した。

私たちも初体験の大型紙相撲は、大人も子どもも夢中になって楽しめた。次回からは、それぞれに大型力士を持参して参加してもらえるように工夫し、相撲の町あじがさわの「誰もが参加できるイベント」へ繋げていきたい。

年間5事業は多いかと思われたが、2ヶ月に一度のイベントで、参加者たちの横のつながりが深まったと思われる。どの事業にも参加者アンケートには「楽しかった」と記入されていたし、実行委員も楽しく事業を行うことができ、目標は達成されたと思う。

これを来年度へも継続し、子育てのしやすい鯨ヶ沢にしていきたい。



4

キャンドルナイトでつながろう in 津軽富士見湖

鶴田町公民館事業プラン実行委員会

活動の中心となる公民館：鶴田町公民館

1 プランのねらい

平成25年度9月に本事業の前身であるキャンドルナイトを開催したところ、予想を上回る参加人数があり、参加者から「継続して欲しい。」との要望を得た。この声に応え、観光資源としての「夜の津軽富士見湖」のPRはもちろんのこと、このイベントに共感し、協力してくれた町内外のスタッフとの関わりを強め、津軽地方活性化のきっかけの1つとするため、キャンドルナイトを発展させ、さらに多くの方を巻き込むイベントにする。

2 プランの工夫点

町内外の多くの方を巻き込むために、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を使って周知する。また、町内の幼稚園と保育園と連携しキャンドル作りワークショップを行い、園児とその家族を巻き込む。

当日しか食べられない鶴田の特産品スチューベンを使ったフードを開発・提供する。

今後の活動につなげるためにアフターミーティングを開催する。

3 実行委員会の組織

会 長：つるた街プロジェクト代表

副会長：つるた街プロジェクト副代表

委 員：つるた街プロジェクト及び鶴田町教育委員会社会教育班

事務局：つるた街プロジェクト

4 取組内容

- (1) キャンドル作りワークショップ
- (2) オリジナルフード作り
- (3) おでかけワークショップ
- (4) 津軽富士見湖キャンドルナイト
- (5) アフターミーティング

5 実施状況

1 キャンドル作りワークショップ

●7月28日他

- 【内 容】 公民館でのオリジナルキャンドル作りのワークショップ。
- 【回 数】 8回
- 【対 象】 町内外のキャンドルナイトやキャンドル作りに興味のある参加者。
- 【会 場】 鶴田町公民館
- 【講 師】 つるた街プロジェクトメンバー



Point

キャンドルナイト当日に使うオリジナルキャンドルを参加者自身で作ることで、一緒に作り上げるイベントにする。また、ワークショップを楽しむことで、今後の活動に協力してくれる人財を探す。

2 オリジナルフード作り

●6月27日他

- 【内 容】 キャンドルナイト当日に販売提供するオリジナルスイーツの開発。
- 【回 数】 5回
- 【対 象】 実行委員会メンバー
- 【会 場】 鶴田町公民館
- 【講 師】 奈良一江
- 【連携先】 奈良一江



Point

鶴田町の特産であるスチューベンを使って、当日限定のオリジナルフード（スイーツ）を開発し、キャンドルナイト参加者へ鶴田町の特産をPRする。

3 おでかけワークショップ

●7月12日他

- 【内 容】 町内の幼稚園、保育園へ出張し、子どもたちとビンのキャンドルホルダー作りのワークショップを実施。
- 【回 数】 6回
- 【対 象】 町内の園児
- 【会 場】 町内の幼稚園、保育園6ヶ所
- 【講 師】 実行委員会メンバー
- 【連携先】 ひなづる幼稚園、野木保育園、はやせ保育園、鶴田中央保育所、つるた乳幼児園、梅沢保育園（計6ヶ所）



Point

公民館ワークショップの前に（又は同時進行で）町内の幼稚園、保育園に出張し、当日キャンドルを入れるビンのホルダー作りを行って楽しんでもらいながら公民館ワークショップの宣伝。

また、当日展示をすることから子どもたちとその家族の参加を促す。



保育園等で作成されたキャンドルは、キャンドルナイト当日、会場に展示された

4 津軽富士見湖キャンドルナイト

●9月14日

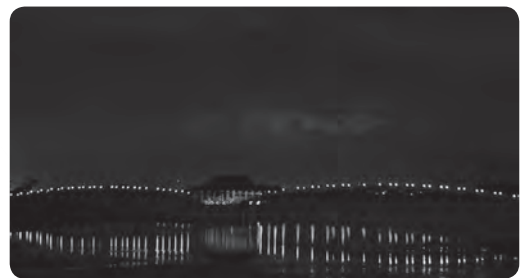
【内 容】 富士見湖パークの一部と鶴の舞橋をキャンドルで飾り、津軽富士見湖の夜の幻想的な雰囲気に参加者に知ってもらい、楽しんでもらうイベント。

【回 数】 1回

【対 象】 町内外の参加者

【会 場】 富士見湖パーク、鶴の舞橋

【連携先】 富士見湖パーク、黒石キャンドルナイトスタッフ、クラフト・ワークショップ出店各所、棟方冷菓店、シヨップMONKEY



Point

昨年度は夜のみのイベントであったが、今回は日中からクラフトショップやワークショップ、夕方からキャンドルナイトを行い、BGMの生演奏、記念写真の撮影等で、参加者に楽しんでもらった。参加者数は約300人(チケット136人)。

5 アフターミーティング

●11月15日

【内 容】 スタッフでイベントの反省会実施。

【回 数】 1回

【対 象】 イベント参加スタッフ

【会 場】 鶴田町公民館



Point

参加者や協力スタッフの意見を共有し、準備～当日までの企画、方法、手順を反省し、話合った。また、当日公民館では町民文化祭が行われていたため、鶴田町に根付いた行事に参加することもでき、改めて鶴田の良さを感じられる機会にもなった。

6 事業の成果

《ワークショップを通じてイベントに多くの人を巻き込む》

公民館ワークショップの参加者14名、イベント参加者約300名（内チケット136名）と昨年を上回り、目標に届く結果となった。また、町内の各幼稚園、保育園におでかけワークショップとして訪問したことにより、イベント当日に家族で訪れたり、噂を聞いて参加する方がいたり、参加者の増加につながったと考えられる。オリジナルフードも好評で、参加者へ鶴田町の特産品を少しでも知ってもらえるきっかけとなった。

また、鶴田町出身のアーティストにライブやBGM演奏を行ってもらうことができ、参加者に知ってもらうことができた。

参加者からは、キャンドルがきれいで良かった、装飾がこっていて楽しめた、ワークショップが楽しかった、ライブ、BGMが素敵だったという声があった。

課題としては、装飾が昨年よりも増えたことにより準備、片付けに予想以上の時間がかかったこと、参加者から会場自体がわかりづらいので、会場までの道の途中に案内板が欲しいという声があった。これについては次回のイベント実施につなげていきたい。

また、昨年度同様、町外から当日スタッフとして協力してくれた方々とつながりを深めることができた。



5

津軽藩参勤交代で江戸城へ！！

北地区コミュニティ会議
活動の中心となる公民館：弘前市立中央公民館

1 プランのねらい

日本は長寿の国だが、私たちが住まいる青森県は「平均寿命」で、男子は35年間・女子は10年間ワースト1を記録している。この汚名を返上、短命県からの脱出を計る事とした。

健康を維持して行く為、家計に出来るだけ負担を及ぼさず効果が期待される、歩く事に着目した。老化は足から始まると言われている。

健康体を作り、人々が街を行き交い、活力に満ちた明るい街づくりの実現を目指す。

2 プランの工夫点

歩く事で健康への底上げを図る運動を展開するが、ただ歩くだけでは夢がないため、参勤交代で江戸城を目指すこととした。

江戸城まで760km。当時の1日の工程は約40km。私たちは、40kmを1/10の4kmとして、19回で達成できるように早朝健康ウォークを計画した。また、毎回参加出来ない方のお助け事業として、2回の関所ウォーク（大間越と碓ヶ関）を行い、各々100kmとして達成の後押しを行う。

また達成度を確認する為、途中で久保田城ほか4ヶ所へ立寄り、到達チェックを行い江戸城へ導く。

3 実行委員会の組織

会 長：北地区コミュニティ会議会長

副会長：北地区社会福祉協議会会長

委 員：北学区体育協会会長、北地区青少年育成委員会委員長、北地区民事協会会長、
北地区保健衛生委員会委員長、北小学校PTA副会長、宮園老人クラブ会長
北児童センター館長

事務局：北地区コミュニティ会議事務局長

4 取組内容

- (1) 歩く事による健康への効能（講演会）
- (2) 津軽藩参勤交代で江戸城へ（早朝健康ウォーク）
- (3) 関所ウォーク
- (4) 「津軽藩参勤交代で江戸城へ」歴史講座

5 実施状況

1 歩く事による健康への効能

●6月7日

- 【内容】「正しい歩き方」についての講演会
- 【回数】1回
- 【対象】北地区居住者
- 【会場】北児童センター
- 【講師】本間 操（弘前歩こう会会長）
- 【連携先】北学区体育協会



Point

昭和40年、自動車が普及し生活の中に深く浸透し人々は歩かなくなった。その頃から糖尿病が増加して来た。健康体を維持しようと思えば歩く事。「老化は足から」よく体を動かし筋肉量を増やすように!

2 津軽藩参勤交代で江戸城へ「早朝健康ウォーク」

●6月10日～10月14日

- 【内容】岩木川コース、加藤川コース（4km）歩行
- 【回数】19回
- 【対象】北地区住民
- 【会場】岩木川せせらぎ広場、加藤川調節池
- 【講師】弘前歩こう会
- 【連携先】北学区体育協会



Point

歩き方の基本、踵を先に地に付けて足先で地をキックする様にして歩くと早足にもなる。足首の紐はきつく結ばない事、自由度が失われ足が疲れる。最終回は台風19号のため自主歩行となったのが残念だった。

3 関所ウォーク（西浜街道を行く）

●7月20日

- 【内容】津軽為信が京都・江戸へ上った道を巡るウォーク
- 【回数】1回
- 【対象】北地区住民
- 【会場】大間越関所跡
- 【講師】福井敏隆（弘前市文化財審議委員長）
- 【連携先】北地区社会福祉協議会



Point

津軽為信が京都・江戸へ上った道。2代信枚3代信義4代信政が参勤交代に使った道を巡り、往時の道成りや樹木が無言で昔を語っている事を感じさせる。大間越の関所越えは勾配もきつく、大変難儀をした事だと思う。

4 関所ウォーク (旧羽州街道を行く)

●9月14日

- 【内 容】 為信が道を開き 4代信政が参勤道に使った
旧羽州街道矢立峠を越えるウォーク
- 【回 数】 1回
- 【対 象】 北地区住民
- 【会 場】 碓ヶ関関所跡
- 【講 師】 今井二三夫 (県文化財保護審議会委員長)
- 【連携先】 北地区町会連合会



Point

矢立峠、旧羽州街道2km峠越えを体験。4代藩主信政が西浜から堀越-石川-碓ヶ関-矢立と羽州街道へ参勤道を替えた。20年後堀越街道を止めて千年-石川-碓ヶ関を参勤道に替えている。(千年街道)

5 津軽藩参勤交代で江戸城へ」 歴史講座 (北地区と津軽藩)

●11月1日

- 【内 容】 北地区と津軽藩どんな関わりや津軽藩の薬草園、お鷹場、南部藩襲撃見張り役などの伝承に関する講座
- 【回 数】 1回
- 【対 象】 北地区住民
- 【会 場】 北児童センター
- 【講 師】 今井二三夫 (県文化財保護審議会委員長)
- 【連携先】 北地区町会連合会



Point

北地区は弘前城にとって要衝地であった。土地は肥沃でコメの一大生産地、薬草園も置かれ藩医の研究場所、歴代藩主の鷹狩場、魚釣り場、藤崎や大川・平川からの侵入者の防御と弘前本城への即時伝達の要衝地、弘前城下の鬼門神の押さえ、水運の荷卸し場、木場としての要衝地。

6 事業の成果

《自らの健康・地域の歴史を知り、元気なまちへ》

企画段階では、地区町会連合会・体育協会・小学校などの協議で、地域全体での動きが確保されただかに思ったが、それは錯覚であった。

児童生徒の行動から父母を呼び込み、事業の地域浸透を家庭からという目論見が崩れた。老人クラブも足腰が良くない、朝起きが大変などで脱落、今回の事業参加者は60才から70才代が中心で、若年層の参加者は少数であった。

反省材料も多くあるが、参加された方々は自らの健康や地域の歴史などについて探究心は旺盛である事からその関心度が益々高まり、地域活性化に大きく貢献する事が期待される。

地区町会連合会が、この活動に対して資金助成の支援をしていただいた事も、事業成功に導こうという意思の表れであり、地域のまとまりを示す好材料であった。

6

ジャンボおらほのいろはカルタ～弘前～

ジャンボおらほのいろはカルタ弘前実行委員会
活動の中心となる公民館：弘前市立中央公民館

1 プランのねらい

少子化・都市化・雇用環境などの社会環境の大きな変化によって、生活のゆとりが減少し、地域の繋がりが弱くなっていると感じている。

そこで、ふるさと弘前に因んだカルタの標語を弘前第三中学校区の児童生徒をはじめ、地域住民から公募することによって、郷土の歴史や観光スポット・伝承文化・津軽ことばなどの題材を求め、あらためて地域の歴史やこだわりを発見して、より一層ふるさとに愛着を抱くことに繋げたい。

また、カルタ大会を開催して参加者同士の交流やふれあいを促進し、地域事業の重要性と効果を意識付けるきっかけとして、今後、参加者として又はスタッフとして積極的に地域事業へ参画できるよう地域の絆を作っていく。

2 プランの工夫点

中学校区での開催を計画しているため、他の小学校区の社会教育団体に実行委員会へ参画していただく。

審査にあたっては、作品の完成度よりも、①子どもの作品、②郷土の歴史や観光スポット・伝承文化・津軽ことばなどの題材を優先する。

作成したカルタは地域内の小・中学校に寄贈するほか、原画の展示会を地域の小・中学校や地域の銀行、郵便局などで開催する。

3 実行委員会の組織

会 長：地域づくり連絡協議会会長

副 会 長：地域づくり連絡協議会副会長、まなびい講座運営委員会委員長

委 員：地域づくり連絡協議会委員、公民館職員ほか

監 事：ふれあい講座運営委員会委員長、地域づくり連絡協議会監事

事務局長：地域づくり連絡協議会事務局長

4 取組内容

- (1) 実行委員会の開催
- (2) 審査会
- (3) カルタ大会

5 実施状況

1 実行委員会の開催

●26年1月17日～

- 【内 容】企画、実施管理（日程調整、周知、選考基準・方法、審査、作品の紹介など）についての会議
- 【回 数】7回
- 【対 象】実行委員ほか
- 【会 場】弘前市立第三大成小学校図書室



Point

予算が厳しくなり、A2版のジャンボカルタの糊付け作業は、専門の表具師からやり方やコツを教わり、委員の手作りである。様々な場面で、それぞれの得意とする力が発揮され、会議や作業は順調に進んだ。

2 審査会

●7月30日～

- 【内 容】審査員20名による審査会（個人審査、集計、決定）
- 【回 数】3回（一次、二次、最終）
- 【対 象】応募された作品件数
応募件数1,524件
- 【会 場】弘前市立第三大成小学校図書室

Point

審査にあたっては中学生3人を審査員に加え、作品の完成度よりも、①小・中学生、地域住民のバランス、②郷土の歴史や観光スポット・伝承文化・津軽ことば、③審査員の話し合いの中で選考基準を決めて審査をした。

on! 弘前宣言です。

標語（読み札）募集のお知らせ

**この事業は下記の目的で実施します。
ふるって ご応募ください！**

弘前市や皆さんの住んでいる地域の歴史や観光スポット・伝承文化・津軽ことばなど郷土に親しみながら、ふるさとを愛する気持ちを表現し、地域振興のきっかけづくりや、市民同士の交流やふれあいを促し、地域振興の大切さを広くお伝えしていきます。

●募集期間：平成26年5月1日～平成26年6月30日まで（選出発表：6月下旬）
●応募方法：各賞状の裏には、お名前・住所・電話番号を必ず記入ください。
●応募先：弘前市立第三大成小学校図書室
●お問い合わせ：ジャンボおらほのいろはカルタ実行委員会 事務局 高木弘子
〒036-8184 市庁舎南館158 TEL:02-6491・FAX:02-6492
/ 弘前市立中央公民館（旧館 館長室）TEL 33-6561

ジャンボおらほのいろはカルタを紹介します!!

「おらほのいろはカルタ」は、弘前市や皆さんの住んでいる地域の歴史や観光スポット・伝承文化・津軽ことばなど郷土に親しみながら、ふるさとを愛する気持ちを表現し、地域振興のきっかけづくりや、市民同士の交流やふれあいを促し、地域振興の大切さを広くお伝えしていきます。

●募集期間：平成26年5月1日～平成26年6月30日まで（選出発表：6月下旬）
●応募方法：各賞状の裏には、お名前・住所・電話番号を必ず記入ください。
●応募先：弘前市立第三大成小学校図書室
●お問い合わせ：ジャンボおらほのいろはカルタ実行委員会 事務局 高木弘子
〒036-8184 市庁舎南館158 TEL:02-6491・FAX:02-6492
/ 弘前市立中央公民館（旧館 館長室）TEL 33-6561

3 カルタ大会

●27年1月31日

【内 容】 大型のカルタを使ったカルタ大会

【回 数】 1回

【対 象】 弘前市立第三中学区の住民や児童・生徒、留学生など130名参加

【会 場】 弘前市立第三大成小学校体育館



Point

- ・大会会場に原画（心あたたまる素晴らしい絵）を展示し、鑑賞することができた。
- ・開会式では、事業の実施に至った経緯と作品の紹介、作品表彰、各小・中学校の生徒会に普通版カルタを贈呈、絵札の制作者に感謝状贈呈（実行委員会会長にも）。
- ・閉会式では、成績発表、表彰、弘前市立第三中学校長から講評をもらった。
- ・新しい試みなので、大会の意義を理解してもらうことを重視し、運営を丁寧に行った。
- ・郷土の題材などから、自分たちで考えた作品がカルタになっているので、カルタ競技に熱が入った。
- ・マスコミ（新聞は陸奥新報と東奥日報、映像はNHK、音声はFMアップルウェーブ）を通し広く紹介できた。

6 事業の成果

《子どもたちのふるさとへの愛着をさらに深めるきっかけに》

小学校区の枠を越え、中学校区の範囲で活動することにより、ダイナミックな集いにすることができた。また、小・中学生とその保護者、学校関係者や地域住民が深く結びつき、一体となった世代間の交流活動を展開することができた。

三大地区地域づくり連絡協議会が積み上げてきたカルタ大会を運営するノウハウを他の学区及び関係機関が情報共有し、学び合うことができ、三中学区のみならず、弘前という地域全体のために貢献することができた。

実行委員会の委員や関係者の知識や技術、得意とする力を発揮できる場面が多く生まれ、協力関係が深まった。

自分たちで考えた作品がカルタになっていること、その読み札から絵（現地まで取材に行って、心あたたまる素晴らしい絵）を描いたこと、子ども達が参加する場面を多く作ったことが、より一層ふるさとに愛着を抱くきっかけとなったことと思う。

陸奥新報 2015年2月1日

東奥日報 2015年2月3日



ちびっ子海賊の佐井村まち探検

佐井村中央公民館事業プラン実行委員会
活動の中心となる公民館：佐井村中央公民館

1 プランのねらい

公民館を中心とした親子対象の事業を行うことで、参加者に村内にある子育てサークルを周知させ、公民館を利用した子育てサークルの活動を活発にしたい。

まち探検を弘前大学の力を借りながら、地域の大人、高校生ボランティアが中心となって行うことで、地域の公民館行事として根付かせ、継続して取り組んでいきたい。

2 プランの工夫点

まち探検では、小学生だけでなく幼児にも参加を呼び掛け、幼児参加の場合は保護者同伴にして、子育て世代の参加者を増やすように努める。

佐井村の仏ヶ浦という観光名所で、海岸に面する奇岩群の中での探検のため、念入りな実地踏査を行い、子どもたちの安全面に配慮する。

また、子どもたちの探検をサポートしてくれる弘前大学の学生も安全面はもちろん、子どもたちへのアプローチの仕方などをしっかり研修して臨む。

3 実行委員会の組織

会 長：子育てサークル 代表

副会長：子育てサークル 副代表

委 員：子育てサークル、地域おこし協力隊、学校支援コーディネーター、
放課後子ども教室コーディネーター、放課後子ども教室指導員

事務局：佐井村中央公民館職員、佐井村役場職員

4 取組内容

(1) ちびっ子海賊の佐井村まち探検

(2) クリスマス会

5 実施状況

1 ちびっ子海賊の佐井村まち探検

●10月11日

【内容】佐井村の景勝地「仏ヶ浦」を舞台にまち探検

【対象】小学生、幼児（幼児参加の場合は保護者同伴）

【会場】津軽海峡文化館アルサス、仏ヶ浦

【講師】弘前大学専任講師 深作拓郎
弘前大学サークルらぶちる

【連携先】弘前大学生涯学習教育研究センター



Point

- ・佐井の子どもたちにとっては、大学のない下北において、大学生と一緒に遊べる機会に恵まれた。また、子どもたちが喜ぶアイデアいっぱいの謎解きをしながらのまち探検にチャレンジできること。この2つの大きな大きな『楽しみ』ができた。なお、今回の参加者32人中、約20人が去年のリピーターだったことも、この事業の楽しさを表している数字だと思う。
- ・大学生の企画力にも驚かされるばかりであった。今年のまち探検では、昨年ちびっ子海賊に宝を探す指令を出した大海賊（佐井村保育所の樋口所長）が病気になり、仏ヶ浦の薬を見つけてきてほしいというビデオレターからスタートした。宝のありかを示す地図や海賊の旗、最後に大海賊からもらえる褒美など、とても手の込んだ小道具も我々では作れない素晴らしいものばかりであった。
- ・6月、ぼぶり単独での1回目の下見は、あいにくの雨だったが、船が出港しない場合のシミュレーションができた。8月、9月は、弘大深作先生、サークルらぶちる、ぼぶりとの合同の下見、打ち合わせを行った。打ち合わせでは、らぶちるが企画したものに、まち探検経験豊富なぼぶりのメンバーから、気を付けるべき細かいポイントをチェックしてもらいながらどんどん計画が実行しやすいものになっていった。
- ・この事業を続けていくために、高校生、中学生ボランティアの活躍が重要だと考えている。今回は高校生1人、中学生4人の参加だったが、ここからジュニアリーダーへと成長してくれることを願っている。そして、参加している小学生が、この中高生を目標として、ボランティアとして参加してくれること、中高生がジュニアリーダーとなり、大学生や大人になっても手伝ってくれるような、そんな事業にしていきたいと考えている。

2 クリスマス会

●12月13日

- 【内 容】 子育てサークルに集まる人達によるイベントの開催。
- 【回 数】 1回
- 【対 象】 佐井村内の親子、隣にある大間町の親子
- 【会 場】 佐井保育所
- 【講 師】 越膳昌子
- 【連携先】 むつ市



Point

- ・ 佐井村の親子だけでなく、隣の大間町にある子育てサークル「イッサ」からも多くの親子が参加した。
- ・ 第1部は、越膳さんを講師に迎え、読み聞かせを実施。絵本の読み聞かせだけでなく、紙芝居やペープサートなど手作りの道具を駆使したとても楽しい時間を過ごした。
- ・ 第2部は、1家族500円の会費を集め、お菓子や飲み物、軽食によるクリスマスパーティーで、子どもたち同士が自由に遊んでいる間、お母さん同士の楽しい会話が弾んだ。

6 事業の成果

《新しい形の公民館事業として継続できる土壌の構築》

昨年に引き続き行った「ちびっ子海賊の佐井村まち探検」は、リピーターが3分の2を占め、公民館事業として、恒例の行事となりつつある。子育てサークルぽぷりを中心として、地域おこし協力隊、公民館職員、役場職員、弘前大学とが協力し、新しい形の公民館事業として継続できる土壌が整った。

クリスマス会は、昨年のパーティー形式のみでなく、今年度は、前半に読み聞かせ会を行うことで、初めて参加する人を呼び込むことに成功した。このような企画力の向上が、公民館機能活性化事業によってもたらされたことが大きな成果と思われる。

8

地域に広げよう！ ハッピーコミュニケーション

あおもりハッピーコミュニケーション塾実行委員会
活動の中心となる公民館：青森市荒川市民センター

1 プランのねらい

コミュニケーションスキルは、円滑な地域コミュニティの形成において、地域住民すべての人たちにとって必要なスキルであることから、今回は、市民が学び、集い、交流する場として核となる市民センター2箇所において、講座等を開催することにより、地域的な広がりを狙うとともに、市民センターの課題である利用実績の少ない20代から40代の女性層をターゲットに講座を開催することにより、ターゲット層を含めた市民センター利用者の拡大を図る。

2 プランの工夫点

講座は座学のみではなく、体感することに重点をおいたワークショップメインの内容とする。また、受講生や地域住民と一緒にイベント開催することで、地域に新たなコミュニティの形成を図る。

幅広い属性（主婦、会社員など）の方に受講していただくために、同一内容の講座を昼と夜の2回開催する。

多くの方に事業を知っていただくために、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を利用する。

3 実行委員会の組織

会 長：カッチャート・プロジェクト

副会長：カッチャート・プロジェクト

委 員：青森市荒川市民センター 管理運営協議会 業務員

青森市中央市民センター 職員

事務局：カッチャート・プロジェクト

4 取組内容

- (1) ワタシ発見！ワークショップ
- (2) コーチング講座
- (3) バルーンアート講座
- (4) あおもりハッピーコミュニケーションまつり
- (5) あおもりハッピーコミュニケーションcafe

5 実施状況

1 ワタシ発見!ワークショップ①

●5月14日

- 【内 容】 カラーセラピー、数秘術
【回 数】 2回
【対 象】 地域住民
【会 場】 ①荒川市民センター（参加者15名）
②中央市民センター（参加者13名）
【講 師】 会場①②ともに
吉田光穂子（カラーセラピー）・対馬奈央（数秘術）



Point

普段あまり振り返ることがない『ワタシ』について、異なるふたつの視点から気づけるワークショップを行った。自分のことを認めるきっかけになったなどの感想をいただいた。

2 ワタシ発見!ワークショップ②

●6月18日

- 【内 容】 カードコーチング、パステルアート
【回 数】 2回
【対 象】 地域住民
【会 場】 ①荒川市民センター（参加者12名）
②中央市民センター（参加者18名）
【講 師】 ①荒川市民センター
高橋隆子（カードコーチング）・田村静香（パステルアート）
②中央市民センター
高橋隆子（カードコーチング）・桜田ひろみ（パステルアート）



Point

今回の講座では、受講生の潜在意識を言葉やパステルアートで表現していくというアウトプットワークを通して、『ワタシ』に気づいていただく内容だった。

3 コーチング講座①

●7月16日

- 【内 容】 『自己承認』ワタシを知る
【回 数】 2回
【対 象】 地域住民
【会 場】 ①荒川市民センター（参加者18名）
②中央市民センター（参加者11名）
【講 師】 会場①②ともに
高橋隆子（カードコーチング）



Point

受講生のみなさんに『自己承認』の大切さをお伝えした。また、カードコーチングをグループワークで行い、気づきをシェアした。

4 コーチング講座②

●9月17日

- 【内 容】『他者承認』 相手を知る
- 【回 数】 2回
- 【対 象】 地域住民
- 【会 場】 ①荒川市民センター（参加者18名）
②中央市民センター（参加者11名）
- 【講 師】 会場①②ともに
高橋隆子（カードコーチング）・吉田光穂子（心理学）



Point

受講生のみなさんに『他者承認』と大切さをお伝えした。また、カードコーチングをグループワークで行い、気づきをシェアした。

5 バルーンアート講座

●9月27日

- 【内 容】 11/8開催イベントボランティアスタッフ向け
バルーンアート講座
- 【回 数】 2回（午前、午後）
- 【対 象】 地域住民
- 【会 場】 荒川市民センター（参加者7名）
- 【講 師】 澤尻淳子
- 【連携先】 荒川市民センター



Point

11月8日に開催するイベント会場を装飾するためにバルーンアートを習得できる講座を開催した。イベント終了後もスキルを活用し地域を元気にすることを目的としている。

6 コーチング講座③

●10月15日

- 【内 容】『相互理解』
- 【回 数】 2回
- 【対 象】 地域住民
- 【会 場】 ①荒川市民センター（参加者14名）
②中央市民センター（参加者10名）
- 【講 師】 会場①②ともに
高橋隆子（カードコーチング）・吉田光穂子（心理学）



Point

受講生のみなさんに『相互理解』と大切さをお伝えした。カードコーチングをグループワークで行い、気づきをシェアした。全5回の講座を通じて受講生同士に新たなつながりができていた。

7 あおもりハッピーコミュニケーションまつり

●11月8日

【内 容】 講座受講生+地域住民でイベントを開催
手作り体験、セラピー体験など大人から子どもまで楽しめるブースを出展

【回 数】 1回

【対 象】 地域住民

【会 場】 荒川市民センター

【講 師】 吉田光穂子（カラーセラピー）・対馬奈央（ワンセルフカード）
高橋隆子（カードコーチング）



Point

荒川市民センターまつりの会場内にて開催した。大人から子どもまで楽しめるワークショップのブースが参加した。受講生のみなさんをはじめ地域の方々が笑顔になれるイベントを目指して開催した。来場者300名だった。

8 あおもりハッピーコミュニケーションcafe

●12月13日

【内 容】 11/8に開催したイベントをブラッシュアップし、講座受講生+地域住民でカフェスタイルのイベントを開催
手作り体験、セラピー体験など大人から子どもまで楽しめるブースを出展

【回 数】 1回

【対 象】 地域住民

【会 場】 荒川市民センター

【講 師】 対馬奈央（ワンセルフカード）・高橋隆子（カードコーチング）



6 事業の成果

《共通の目的に向かっている人たちが学びの仲間》

ハッピーなコミュニケーションができるようになりたいという共通の目的を持った仲間たちのポジティブなコミュニティ形成することができた。

受講生のコミュニケーションスキル向上による、日常における人間関係向上が必要だと感じた。公民館の新規利用者の増加に寄与することができた。

上十三若者ネットワーク「9根」
活動の中心となる公民館：東北町中央公民館

1 プランのねらい

20代、30代を中心とした地域の若者の交流と連携を目的としている。また、地元の魅力をよく知ってもらい、自分たちの地域には「特色が何もない」というネガティブな発想から、「あれもある、これもある」というポジティブな思考への転換を図ることもねらいとしている。

その上で音楽・美術・文化活動等の様々な経験をしている同世代の人たちの実演を鑑賞し、その場の盛り上がりに参加者同士で共有することにより、参加者自身の経験の幅を広げ、自他共に認め合える人間関係を築く。

2 プランの工夫点

情報発信の面に力を入れるため、ポスターやチラシでの広告から、TwitterやFacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）に重点を置く。

音夜祭当日では音楽のみならず、キャンドルデコレーション、レザークラフト、ライブアート等、多様な芸術を取り入れ、より多くの同世代の若者がそこに集い、交流することでお互いによりよい刺激を得られるように工夫する。

また、地域住民へのPR、連携を図るため幅広い世代で参加できる、空間デザイン講座でワークショップ開催する。

3 実行委員会の組織

会 長：会社員

委 員：会社員、主婦、東北町役場職員、東北町中央公民館職員

事務局：東北町役場職員

※上十三若者ネットワーク「9根」^{きゅうこん}は、平成24・25年度に実施した「地域つながり創造人育成事業」（青森県総合社会教育センター）で結成された団体です。

4 取組内容

- (1) 月例会
- (2) イベントPR活動
- (3) 空間デザイン講座
- (4) 清水目音夜祭2014
- (5) ボランティア活動

5 実施状況

1 月例会

●4月7日、5月7日、6月20日、8月6日

- 【内 容】 プラン実施の計画と打ち合わせ
- 【回 数】 4回
- 【対 象】 9根メンバー全員
- 【会 場】 東北町中央公民館



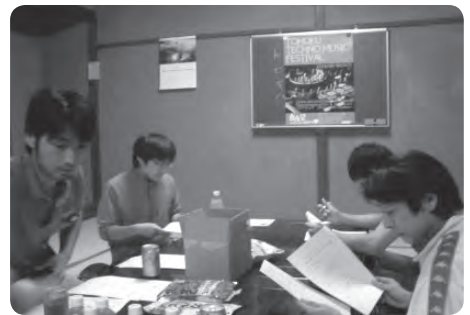
Point

- ・メンバー全員が自由に、ポジティブな意見を出せるような雰囲気を大切にした。
- ・メンバーが公民館で活動することで、別の公民館活動をしている方々と交流が生まれた。

2 イベントPR活動

●4月～音夜祭まで

- 【内 容】 月例会後の学習会とポスターデザイン打ち合わせ、PR活動
- 【回 数】 学習会は4回、PR活動は随時
- 【対 象】 9根メンバー
- 【会 場】 東北町中央公民館（学習会）
上十三地域全域、青森市、八戸市、弘前市



Point

- ・上十三地域の市町村を北部、中部、南部、2市の4つに分割し担当を決めて広報活動を行った。
- ・青森、八戸、弘前にあるショップに協力をいただいて、上十三地域以外にも広報活動を行うことが出来た。
- ・道案内の動画など、開催告知以外の情報も配信し好評だった。

3 空間デザイン講座

●7月20日

- 【内 容】 野外空間におけるキャンドルの装飾性と照明効果の変化について研修
- 【回 数】 1回
- 【対 象】 9根メンバー、地域住民
- 【会 場】 東北町中央公民館・清水目オートキャンプ場
- 【講 師】 玉川広志（キャンドルアーティスト）





- ・色鮮やかなキャンドルを簡単に作る方法を楽しく学ぶことができた。
- ・玉川さんのアドバイスのもと、キャンドルを会場に設置する際のアイデアを検討、実際にモデルを製作できた。
- ・音夜祭のメインブースとして使用する、2Vタイプのドームを自作した。

4

清水目音夜祭2014

●8月16日

【内 容】 DJの実演を核とし、ライブアートなどの芸術活動を取り入れた音楽イベント

【対 象】 音楽を楽しみ、地域を愛するすべての人

【会 場】 清水目オートキャンプ場（東北町）



設営チームを作って効率的に準備



9根が用意したテントを無料貸し出し



スクリーンにVJの演出も成功した



若者だけでなく4～60代の参加者も



講座を生かしたキャンドルアート



- ・役割のローテーションを決めて、スムーズなイベント運営ができるよう工夫した。
- ・リピーターの方々も多く、参加者が昨年よりも増加した。
- ・雨が心配されたが参加者と9根メンバーの熱気でイベント中は降ることがなかった。

5 ボランティア活動

●8月17日

- 【内 容】会場周辺の清掃活動
- 【回 数】1回
- 【対 象】9根メンバー、音夜祭参加者有志
- 【会 場】清水目オートキャンプ場周辺



Point

- ・会場内の清掃、トイレ掃除等を行い、開催前よりも綺麗にすることを心掛けた。
- ・音夜祭で使用していない部分の清掃を行い、地域住民の理解を得ることができた。

6 事業の成果

《地域の若者の交流・連携を図る》

我々9根がこの東北techno music festival 清水目音夜祭 2014を実施するにあたり、目的のひとつに、地域に住む人々、特に若者たちのポジティブな思考への転換がある。音夜祭では地元在住で、県内外問わず活躍するDJの方々による音楽の実演、キャンドルアートやレザークラフト、ライブアートなどの芸術活動に触れることを通じて、多くの来場者の方々と交流の輪を広げることができた。その中で、「ここだから出来る事」、「都会ではできない事」、「自分たちにもできる」というポジティブな思いを多くの参加者に届けることができたと考えている。それは参加者が増えていくことから感じることもできた。それと同時にもうひとつの狙いである地域の若者の交流・連携という点においても成功だったのではないだろうか。

活動の拠点を公民館にしたことは、若い世代をターゲットにしたイベントであるが、公民館において打ち合わせや学習会、準備などを行い、さらには地域住民も対象にした講座を開催するなどの活動をしたことで、そこに足を運ぶ幅広い層の方々に我々の活動を理解していただくことができ、アドバイスをいただくなど交流も深めることができ、地域住民の参画という点で大きな意味をもった。またこのような活動の中で9根メンバーもイベントを開催するにあたっての問題点の解決や報告業務等を通じ、飛躍的に成長できた。

今後の課題としては、「9根」の活動をもっと多くの人に理解していただき協力者を増やすこと、異なるイベントへのチャレンジ、そして核となる音夜祭のさらなる改善などが挙げられる。

10

ものづくり体験を通して 地域住民の交流の和を広げる

六戸町地域づくり実行委員会withかえで組
活動の中心となる公民館：六戸町文化ホール

1 プランのねらい

南部祭囃子大競演会舞台の製作体験、段ボールオーブンをを使ったピザ作り講習、イベントのステージ製作等のものづくり体験を通して、地域住民同士の交流を促すとともに、子どもの心身の健全な発達を促し、生きる力の醸成や家庭及び地域の教育力向上を目指す。

2 プランの工夫点

一つの取組を1年間かけて行うのではなく、色々な講座をおこなうことにより、ものづくりに対して関心・興味をもってもらうこととする。

危険だから出来ないではなく、なんで危険なのか、どうすれば危険じゃないのかを子どもたちと話し合いながら行う。

3 実行委員会の組織

会 長：かえで組会長

副会長：6 door's会長、六戸町観光協会理事

委 員：下町祭典委員長、おいらせ農業協同組合職員、六戸町子ども会育成連絡協議会会長、
メイプルタウンフェスタ実行委員会副会長、かえで組

事務局：かえで組

4 取組内容

- (1) 「サマーフェスティバル」のステージ作成
- (2) 出前講座
- (3) 南部祭囃子競演会の舞台製作体験
- (4) 横笛作り体験
- (5) 自由創作

5 実施状況

1 「サマーフェスティバル」のステージ作成

●7月24日～27日

【内 容】 町観光協会のイベントであるサマーフェスティバルのステージの組立てと解体を実施。

【回 数】 2回

【対 象】 小学校1年～大人(子ども4人、大人8人計12人)

【会 場】 六戸町総合体育館駐車場



Point

ステージの組立ての仕方、組み立てる道具の取り扱い方を学びながら設置、解体した。子ども達には、次に何をすればいいのかわ、KYT(危険予知トレーニング)、作業を体験させたことにより、責任感や達成感を育むことができた。

2 出前講座

●9月15日、10月25日、12月21日

【内 容】 第一回、第二回出前講座

(ダンボールオーブンで焼く手作りピザ)

第三回出前講座

(ダンボールオーブンで焼く手作りカップケーキ)

【回 数】 3回

【対 象】 第一回：子ども会会員52名

第二回：六戸小学校4年生レク38名

第三回：六戸小学校6年生レク38名

【会 場】 第一回：七百地区公民館 (9/15)

第二回：六戸小学校 (10/25)

第三回：六戸小学校 (12/21)

【講 師】 第一回：かえで組12名

第二回：かえで組 9名

第三回：かえで組10名



Point

講師は、大人だけでなく、かえで組メンバーの子ども達にも各班を教えさせた。かえで組の子ども達にはリーダーシップを養うことができた。参加者には、ダンボールオーブンやピザの作り方を体験してもらうことにより、もの作りの興味や楽しさを提供することができた。

3 南部祭囃子競演会の舞台製作体験

●10月4日～5日

- 【内 容】 「十和田湖伝説」山車風の人形等製作体験
- 【回 数】 4月～10月5日まで
- 【対 象】 子ども～大人
- 【会 場】 製作：町文化ホール、南町第一公民館
設置：六戸町総合運動公園、六戸町文化ホール
- 【講 師】 川原 博



Point

山車人形製作体験ということで、カッターで形を作ったり色を塗ったりみんなで協力し合いながら製作しました。作る枚数は数百を超えるモノもあったが、実際に舞台に自分たちが製作したモノが飾られると、やりとげた達成感を味わうことができました。また、当町の郷土に対する興味関心を与えることができました。

4 横笛作り体験

- 【内 容】 横笛作り
- 【回 数】 11月～12月
- 【対 象】 子ども～大人
- 【会 場】 六戸町文化ホール
- 【講 師】 剣吉洋行



Point

横笛を作るにあたり、竹を切る・穴をあける・削る・加工する技術を体験することができた。竹に穴をあけ、音だしをした際、音が出た時にはみんなで感動が湧き上がった。竹自体が、作業中に割れたりすることがあったが、ボンドで接着したりするなど、臨機応変に対応することができた。作業途中の失敗は、それで終了ではなくあきらめず完成までもっていく事を子ども達に経験させることができた。

5 自由創作

- 【内 容】 焼物教室
- 【回 数】 12月～1月
- 【対 象】 子ども～大人
- 【会 場】 六戸町文化ホール
- 【講 師】 なし



Point

自由創作ということで、みんなが興味を持ったことについて話し合った結果、焼物教室になった。焼物窯ではなく、オーブンで焼く粘土で挑戦した。みんな思いのモノを創作して作り、世界で一つだけの自分のモノが作れた。興味を持つこと、そして挑戦し、楽しく学習することができたと思う。

6 事業の成果

《ものづくり体験を通して、地域住民同士が交流》

出前講座では、学校や子ども会からの要請があり行うことができた。本事業で行ったおかげで、出前講座の活動と周知の幅が広がった。

色々な世代が参加したことにより、親以外の大人が子ども達に対して注意をすることができるようになった。

学校関係者、保護者、地域住民を対象に郷土文化の体験と子どもの育成に関する講座を実施したことにより、当町の祭文化を伝えることができた。

製作教室参加者だけでなく、誰でも見学・体験できるようにしたことにより、多くの人に山車や山車製作について興味関心をもってもらえることができた。また、参加者が製作の工程等を見学者に説明等を自主的にする場面もあり、研修の成果が見られた。

11

手作りの11ぴきのねこによる 町民活性化事業

三戸町民活性化実行委員会
活動の中心となる公民館：三戸町中央公民館

1 プランのねらい

テーマ「手作りの11ぴきのねこにより町民の学習意欲を高めよう」である。

三戸町では11ぴきのねこを活用した町づくりをすすめているが、現在は行政主導でのねこのキャラクター使用が主であり、町民が考案した11ぴきのねこの活用はあまり見られない。

今回の事業を通して、地域の力を活用した手作りの11ぴきのねこを、様々な作品にして町内外の方の目に触れさせていきたい。

2 プランの工夫点

公民館講座の受講者や、自主サークルの発表の場が少ないということが、社会教育の課題として毎年あげられている。

今回の企画を通して、11ぴきのねこを活用した作品を、公共施設や保育所、幼稚園などへ提供することで、受講生やサークルの発表の場となり、講座・サークルのアピールの場にも繋がると考える。また、学習意欲も高まり、公民館講座の受講者や自主サークルのスキルアップを図ることができる。

さらには、これらの活動を町の広報でも紹介し、生涯学習の楽しさを広めていきたい。

3 実行委員会の組織

会 長：公民館副館長

委 員：トールペイントサークル
 バルーンアート講座受講生

事務局：教育委員会事務局

4 取組内容

- (1) 公共施設に11ぴきのねこを描こう！
- (2) 幼稚園や保育所、学校施設等にねこのバルーンを飾ろう！
- (3) ねこのバルーンを公民館まつりで展示しよう！

5 実施状況

① 公共施設に11ぴきのねこを描こう! ①

●4月7日～4月24日

【内 容】 公民館ロビーの壁に11ぴきのねこの絵本1ページを描く活動を実施。

【対 象】 実行委員3名、一般参加1名の計4名

【会 場】 三戸町中央公民館 【連携先】 トールペイントサークル



Point

著作権の問題があり、想像や実在しない描写ができないので、色などには十分に注意した。壁全体を使い、絵本の1ページを切り抜いたような作品となった。

② 公共施設に11ぴきのねこを描こう! ②

●5月15日～8月27日

【内 容】 公民館の廊下の壁に11ぴきのねこの絵本5ページ分を描く活動の実施。

【対 象】 実行委員3名、一般参加5名の計8名

【会 場】 三戸町中央公民館 【連携先】 トールペイントサークル



Point

多種多様な絵具を組み合わせ、トールペイント独自の技法で影をつけ、グラデーションを施すことによって、よりリアルに、立体感がある絵になっている。色彩豊かな絵を選定したことで、電気をつけなくても明るい廊下になった。

③ 公共施設に11ぴきのねこを描こう! ③

●9月18日～12月10日

【内 容】 公民館の廊下に、11ぴきの絵を描いた額を飾る活動の実施。

【対 象】 実行委員3名、一般参加5名の計8名

【会 場】 三戸町中央公民館 【連携先】 トールペイントサークル



Point

額縁まで着色している。設置金具を見えないようにすることで見栄えを良くしている。また、取り外しできるようにしてあり、行事の際など、持ち運べるようにしている。

4 公共施設に11ぴきのねこを描こう!④

●12月11日～1月20日

【内 容】木の板にねこを描き、公民館の階段などに飾った。また、各部屋を示すプレートや案内板をねこ仕様にする活動の実施。

【対 象】実行委員3名、一般参加5名の計8名

【会 場】三戸町中央公民館 【連携先】トールペイントサークル



Point

木は、ねこの形に切り抜き、トールペイントによってグラデーションを施している。壁だけではなく、様々なところにねこを配置した。

5 幼稚園や保育所、学校施設等にねこのバルーンを飾ろう!

●7月10日、8月7日、9月11日、10月9日

【内 容】11ぴきのねこのバルーンを製作し、公民館・町役場・保育所4箇所・幼稚園2箇所・児童館2箇所・小学校3箇所に飾る活動の実施。

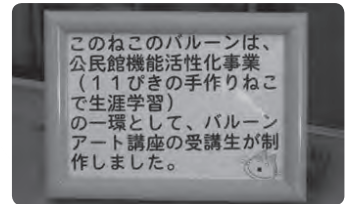
【回 数】4回

【対 象】実行委員1名、一般参加7名の計8名

【会 場】三戸町中央公民館

【講 師】ビーンズバルーン バルーン作家 阿部博美

【連携先】バルーンアート講座受講生



Point

各回、受講生1人につき1つ、ねこのバルーンを製作し、町内の各施設に展示した。作品のそばに、バルーンアート講座の受講生が作った旨を書いたプレートを置くことで、講座のアピールにも繋がったと考える。

6 ねこのバルーンを公民館まつりで展示しよう!

●10月30日、11月1日～11月3日

【内 容】 11ぴきのねこのバルーンを製作し（10月30日）、公民館まつりにて展示（11月1日～11月3日）。

【回 数】 1回

【対 象】 実行委員2名、一般参加9名の計11名

【会 場】 三戸町中央公民館

【講 師】 ビーンズバルーン バルーン作家 阿部博美

【連携先】 バルーンアート講座受講生



Point

とらねこ大将を含めた11ぴきを展示した。11ぴき揃うと、絵本から飛び出したかのように見栄えも良く、多くの人が写真を撮っていた。ねこを立たせてみたり、模様をつけたりと、一人一人の個性が出ており、どれも違った良さが出ている。

6 事業の成果

《11ぴきのねこで人の輪が広がる》

「公共施設に11ぴきのねこを描こう!」については、「公民館に11ぴきのねこの絵がある」という噂を聞きつけ、見学のためにわざわざ公民館へ足を運んでくれる方もいる。作品を見て感動する方が多く、「公民館が明るくなった」など、多くのお褒めの言葉をいただいている。

また、近隣の保育園児の散歩コースのひとつにもなり、ねこの絵が描かれたロビーで読み聞かせなどを行っている。

これらのことがトールペイントの方々の自信につながったと考える。11ぴきのねことサークルのアピールにも繋がり、良い事業を展開できたと思う。何より、サークルの方々が楽しみながら活動できたことが一番である。

「幼稚園や保育所、学校施設などにねこのバルーンを飾ろう!」では、本来の公民館講座で製作するバルーンと、各施設へ展示するねこのバルーン製作で、1回あたり3時間という長時間の講座になったが、自分が製作した作品が展示されるということで、丁寧に一生懸命製作していた。初めのうちは悪戦苦闘していたが、回を重ねるごとに上達し、講師の教えが無くても進められるようになり、談笑しながら楽しく活動している姿が見られた。

ねこのバルーンを子ども達がいる施設に持っていくと、皆喜んでくれていた。講座はまだ2年目だが、受講生のみで作れるところまでスキルアップできれば、サークルとして独立し、さらには行事やイベントの講師として活躍できるのではないかと思う。



1 プランのねらい

当地区には地域住民自ら整備保存している自然と歴史の道がある。公民館を中核に、地域内の町内会、子ども会、婦人会、老人クラブ等に呼びかけ、幅広い世代にこの古道を地域財産として共有してもらい、そこに住民の交流を生み出す。

また、この活動は、故郷のよさを再確認することにつながり、次代を担う子ども達に地域の自然・歴史を継承するのに必要不可欠な活動である。

2 プランの工夫点

モデルプラン全体を、「親子ハイキング」「住民井戸端会議」「パワーアップハイキング」「丸わかり新聞発行」と4事業で構成し展開することで、地域内の幅広い世代を巻き込むようにする。また、本事業について、地域住民への積極的な情報発信を行う。

3 実行委員会の組織

会 長：六郷地区振興協議会会長
副会長：六郷地区振興協議会副会長
委 員：六郷地区振興協議会役員
事務局：黒石市立六郷公民館

4 取組内容

- (1) 事業周知と参加者の募集
- (2) ろくごう「幻の古道」親子ハイキング
- (3) ろくごう探訪マップで「幻の古道復活」住民井戸端会議
- (4) ろくごう「幻の古道」標柱づくり
- (5) ろくごう「幻の古道」パワーアップハイキング
- (6) ろくごう「幻の古道」丸わかり新聞発行

5 実施状況

1 事業周知と参加者の募集

●26年2月～27年1月

- 【内容】ポスター・チラシ・広報等による事業周知
- 【回数】10回程度
- 【対象】地域住民
- 【会場】六宝館他



Point

モデルプラン全体の周知および4つの事業ごとの周知・募集をポスター・チラシで地域全体に行ったほか、公民館広報誌を利用して各事業終了後の報告を行った。本事業への参加にとどまらず、今後の継続のため地域全体に活動状況を情報発信し、共有を図った。

2 ろくごう「幻の古道」親子ハイキング

●6月7日

- 【内容】調査ハイキング 【回数】1回
- 【対象】親子 ※ただし都合により大人のみで実施 【会場】六宝館、幻の県道他



Point

参加者を3チームに分け、3方向から「幻の県道」に入山し、危険箇所・迷いやすい箇所・標柱の状況などを調査した。各チームがコース地図を持参し状況を記録したことで、詳細な情報を得ることができた。これをもとに「『幻の古道』探訪マップ」を作成した。

※本事業は親子を対象としていたが、利用予定の林道が雪で崩壊したため、子どもの負担を考慮し大人だけで行った。

3 ろくごう探訪マップで「幻の古道復活」住民井戸端会議

●7月22日

- 【内容】住民井戸端会議
- 【回数】1回
- 【対象】地区内町内会・各種団体など
- 【会場】六宝館



Point

6月7日の調査ハイキングの内容をもとに、地域内の町内会・各種団体等に呼びかけ、「幻の古道」復活のための井戸端会議を行った。さまざまな団体から参加してもらったことで、幻の古道の維持保存に係る問題点・対策方法などいろんな意見を収集できた。参加者全員が幻の古道の現状を地域課題と認識し、それに取り組んでいこうという姿勢ができた。

4 ろくごう「幻の古道」標柱づくり

●8月31日～10月6日

- 【内 容】 標柱づくり
- 【回 数】 7回
- 【対 象】 地域住民
- 【会 場】 六郷地区振興協議会長宅



Point

住民井戸端会議で、建て替え用の標柱はこれまでのものに準じて手作りする
ことに決定したため、地域内の団体等に協力を呼びかけ作業を行った。作成には
約一カ月を要したが、文字彫り・墨入れ・防腐剤塗布等を自分たちの手で行った
ことで、標柱への愛着が高まり、パワーアップハイキングへの意欲につながった。

5 ろくごう「幻の古道」パワーアップハイキング

●10月12日

- 【内 容】 標柱建替えのためのハイキング
- 【回 数】 2回（前日準備含む）
- 【対 象】 地域住民
- 【会 場】 六宝館、幻の県道他



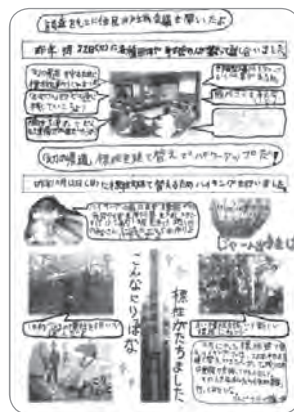
Point

1日目に標柱の運搬を行い、2日目に建て替え作業を行った。
参加者を3班に分け3カ所から入山。班ごとに担当する標柱を決め作業したた
め、手がけた標柱への愛着が湧いたようだった。時間の都合上、建て替えできた
のは15本であったが、参加者および今回参加できなかった地域の人からも、残
りの建て替えの際はぜひ参加したいとの声が聞かれた。
地域財産の維持・保存活動の継続に対し前向きな意見が多かった。

6 ろくごう「幻の古道」丸わかり新聞発行

●1月1日

- 【内 容】新聞発行
- 【回 数】1回
- 【対 象】六郷地区毎戸



Point

公民館内の児童クラブの子ども達が、本事業の目的や内容に感想を入れ、新聞にまとめた。これを地区内の毎戸に配布。住民から「内容が簡潔で分かりやすかった」等の感想が聞かれた。

この新聞は、本事業の地域全体への報告と、住民の地域財産への理解を深めるのに役立った。新聞作成に携わった子ども達の中には、「幻の古道」への興味が湧き「歩いてみたい」と言う子がいた。

6 事業の成果

《地域財産の継承について、地域全体の機運を高めることに貢献》

地域財産の維持・保存のため、調査、課題発見、課題への取組、取組の報告という流れを4つの事業で展開した。各事業のたび、会議・準備を含むと、相当数の住民交流の機会を設けることができた。

また、公民館が中核となったことで、子どもから高齢者まで幅広い世代が事業に関わり、地域財産「幻の古道」への興味と知識を深めた。このことは、今後の継続的な活動と地域財産の継承について、地域全体の機運を高めるのに貢献できた。

また、本プランは、マップ作成、標柱づくり、標柱建て替え、新聞作成など、地域住民の手作業による活動が多かった。このことが、参加者に地域活動で役立つことの充実感やみんなでやればできるといった思いを抱かせ、他の地域活動にも波及していることは大きな効果と捉えている。

公民館のための 人財育成プログラム

公民館には、

集 う <人財の発掘>

学 ぶ <人財の育成>

つなぐ <人財のネットワーク化>

という機能があります。

公民館が、地域の人財育成の拠点として継続的に機能するためには、公民館職員の実践的なスキルアップと地域住民の意識涵養・実践力のスキルアップが必要です。また、各地域で地域課題を踏まえて地域づくり活動に参画する人財を発掘し、育成し組織化していく一連の流れを定着化させることが必要です。

そこで、市町村教育委員会や各公民館等と地域住民、市町村職員等との協働による継続的な地域づくり活動につながる地域の人財育成のためのプログラムを作成しましたので、人財育成のマニュアルとして活用ください。



講座1 公民館を知る

そもそも公民館とはどのようなものであるかを知りましょう。

1 公民館とは

社会教育法によると

公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術および文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的としています。

2 公民館の役割・機能

文部科学省生涯学習審議会報告「公民館の整備・運営の在り方について」（平成3年6月）において、公民館が果たすべき役割として次の項目を示しています。

(1) 公民館活動の多様化・活発化

- ①多様な学習機会の提供 ②自発的な学習活動の支援
- ③学習成果活用場の配慮

(2) 学習情報提供・相談機能の充実

- ①学習情報の提供 ②相談機能の充実

(3) 地域活動の拠点としての役割

(4) 生涯学習関連施設等との連携

また、文部科学省告示「公民館の設置及び運営に関する基準」（平成15年6月6日）において、公民館の役割・機能に関し、次の通り基準を示しています。

(1) 地域の学習拠点としての機能の発揮

- ①多様な学習機会の提供 ②学習情報の提供の充実

(2) 地域の家庭教育支援拠点としての機能の発揮

(3) 奉仕活動・体験活動の推進

(4) 学校、家庭及び地域社会との連携等

- ①学校・家庭・地域社会との連携推進
- ②公民館類似施設への協力及び支援
- ③青少年、高齢者、障害者、乳幼児の保護者等の参加促進
- ④地域住民等の学習成果、知識・技能の活用

(5) 地域の実情を踏まえた運営

- ①住民ニーズの反映 ②地域の実情の勘案

以上から、地域社会における公民館の役割は、次のとおりまとめることができます。

①地域における学習支援

- ・多様な学習機会の提供 ・自主的な学習活動の支援 ・学習成果活用の支援
- ・学習情報提供 ・学習相談

②地域づくりやまちづくりの支援

- ・地域づくりに関わる活動の支援 ・地域連体意識の向上への寄与

3 公民館の今後の方向性（第2期教育振興基本計画）

中央教育審議会「第2期教育振興基本計画について（審議経過報告）」（平成24年8月24日）において、4つの基本的方向性の一つとして「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」が掲げられており、『東日本大震災の被災地では、学校と地域住民が連携した取組を進めている地域では避難所運営が円滑に進められるなど、日頃より存在するコミュニティにおけるつながりや支え合いの重要性が際立った』点を取り上げ、『学びを通じたコミュニティの形成をより積極的に進めていく必要がある』ことから、『その拠点として学校や公民館等がより重要な役割を果たしていくべき』としています。

また、具体的方策として、『学校や公民館等の社会教育施設をはじめとする「学びの場」を拠点に、地域コミュニティの形成を促進するための地域住民の学習活動を支援する』ことを掲げています。

人口減少や少子化、高齢化などが急激に進行する中、公民館は、地域の課題解決を支える人財を育成し、異世代間の人財をつなぐ、地域コミュニティの拠点として、重要な役割を担うものと考えています。

《参考》

○設置者

公民館は、市町村が設置する（社会教育法第21条第1項）。市町村が設置する場合を除くほか、公民館の設置を目的とする一般社団法人・一般財団法人でなければ設置することができません。

○利用方法

公民館は、生活文化の振興や社会福祉増進への寄与を目的に設置された社会教育施設です。

よって、公民館の部屋の使用は、生涯学習活動、住民の集会やその他公共的利用を主としますが、その他の会議・研修・発表等の使用も可能です。

○公民館を利用できない場合

以下に該当する使用内容の場合は公民館を利用することはできません。

1 営利を目的とする使用

営利を主たる目的として、以下のいずれかに該当する使用

- ①過大な入場料等を徴収する。
- ②公民館内において商品の販売、契約、宣伝若しくはこれらに類することを行う。
- ③特定の営利事業に公民館の名称を使用する。
- ④講師又は企業等が主導で生徒を集め、公民館を自らの事業の拠点として広く宣伝し、長期間、定期的・継続的に使用する。

2 特定政党の利害に関する使用

特定の政党及び特定政党に密接に関係する政治団体等による、政党员等に限定した自らの政治活動のための使用

3 特定の宗教に関する活動使用

特定の宗教の布教、教化、宣伝等を目的とする積極的行為や宗教上の行為や、祝典、儀式又は行事を含む、およそ宗教的信仰の表現である一切の行為



講座2 地域を知る

事業や講座を具体的に計画する前に、該当地域の現状や特性・学習環境・学習ニーズなどについて知ることが大切です。

実態や課題を踏まえることで、「この課題に対応するためにこの事業を行おう。」「こういう実態があるからこれが一番よい方法だろう。」という分析に基づいた判断ができます。

経験やカンだけでなく、客観的なデータに基づいた準備も大切です。

○「地域」と「暮らし」の様子を知る。

自分の地域がどんな地域か、何が地域と暮らしの問題なのか、豊かに楽しく暮らすために何が必要なのかを調べましょう。

- ・地勢、人口構成など 過疎化、高齢化率、産業従事者の増減 など
- ・住民の生活状況 就労状況、昼夜人口比率、余暇の過ごし方 など
- ・教育、文化的環境 学校数、生涯学習関連施設数 など

○地域の「まなび」の様子を知る。

自分の地域ではどんな学びがあるのか、現状と課題・問題を明らかにして、どんな取組が不足しているか調べましょう。

- ・施策の整理：関連部局の施策も含めて、自分の市町村でどんな施策が打たれ、展開されているか。
- ・事業の分析：どんな事業が行われ、その評価はどうか。民間等で類似の事業があるのか。

○地域の人々が何を学びたいのか知る。

地域の人々が何に関心を持ち、何を学びたいのかアンケート・ヒアリング調査等行って、学習ニーズの多様化・高度化に応えられるようにしましょう。また、そのために学習内容や方法について検討しましょう。

講座3 企画書にまとめる

どんな地域にするのか、自分たちはどんな住民になるのか、自分たちに何ができるのかを考え、それを1枚の企画書にまとめることにより、事業の全体をイメージしたり、学習方法や事業スケジュールを検討したりできます。

また、企画書にまとめて置くことにより、協働する相手や支援を求める相手にPRやプレゼンテーションすることもできます。

この企画書は、平成25年度「第2回公民館の力活用住民講座」で使用したものです。参考にして、作成してみましょう。

事業名 自分のイメージする事業の名前は？ ・ 名前の由来は？ ・ 名前に込められている思いは？	キャッチコピー 事業を一言でアピールすると？ ・ わかりやすく、魅力的に ・ 新聞記事のタイトルにするとしたら？	夢・目標 企画を通して成し遂げたい夢・目標は？ ・ この事業を成功させて実現したいことは何か？ ・ どうやって地域に貢献しようとしているのか？ ・ どんな地域をつくりたいのか？ ・ 3年後、5年後、10年後の未来予想図をどんな風に描いているのか？
---	--	---

企画書

事業名:		キャッチコピー:	
夢・目標:			
対象 誰を参加対象とするか？ ・ 対象者は誰か？ ・ 定員を何名にするか？ ・ 具体的なイメージは？ ・ どのニーズに応えたいのか？	事業概要 何をどのように実施するか？(4Pの視点) 【Product】(趣旨) 【Place】(会場) 【Price】(参加費) 【Promotion】(広報)	プログラムの具体 どうやって実施するか？ （講師・時間・謝金・場所・消耗品等の準備物） ・ 対象とスタッフ以外にどのような関係者がいるのか？ ・ 人の間でどのようにお金が流れるか？ ・ 人の間でどのようにモノが流れるか？ ・ 役割分担等	
現況 今の地域の現状は？ 【課題】	メンバーの強み 組織の強みは？	必要資金 実施にかかる経費は？	開催までのプラン 準備から開催までは？ スケジュール表 開催当日までの準備：打ち合わせの流れを逆算して洗い出しましょう！ ・ 準備のスケジュール ・ ミーティングの設定等
ポテンシャル 組織メンバーでできること？	リスク 予想されるリスクは？		

現況

地域から必要とされていることは何か？

- ・ 世の中の動き
- ・ 時代のキーワードは何か？
- ・ 関わりのあるニュースから何を掴みとるか？
- ・ どんなスタイルが受け入れやすいか？
- ・ 受け入れられる時間設定は？
- ・ いくらまでお金をだせそうか？

事業概要

何をどのように実施するか？(4Pの視点)

【Product】(趣旨)

- ・ 一言で言うとどんな企画内容なのか？
- ・ どのように対象のニーズに対応できるのか？

【Place】(会場)

- ・ 対象はどこを会場として実施することを見込んでいるか？
- ・ 毎月、何回ここに実施するべきか？
- ・ (季節や時間帯によって実施場所を変える必要があるか？)

【Price】(参加費)

- ・ 地域の参加者はどのくらいお金を払ってくれるのか？
- ・ 類似事業に比べて高いのか安いのか？
- ・ (なぜ高いのか？安いのか？)

【Promotion】(広報)

- ・ 対象はどのようにして(どこで)、この事業を知るのか？
- ・ 対象にこの事業をどのように宣伝したら一番よくわかってもらえるのか？
- ・ (チラシ、ポスター、Web、Eメール、PR戦略等)
- ・ 対象が参加したくなる決めの手段は何か？

必要資金

事業を実施にいくら必要なのか？

【必要経費】

- ・ どのような支出があるのか？消耗品はどれだけか？
- ・ そのためにいくら必要なのか？
- ・ 借りられるもの、自己資源は？

【資金調達するとしたら……】

- ・ どうやってお金を集めるのか？
- ・ 参加費を合わせると？

リスク

予想されるリスクは？

- ・ 事業がうまくいかなかったら、どんなことでつまづきそうか？
- ・ 事業がうまくいかなかったらどうすればよいのか？
- ・ もしつまづいてしまったらどのように対応すればいいのか？

ポテンシャル

メンバーでできることは？

- ・ 活用できる資産(金、スタッフ、ネットワーク、共働、後援、協力団体)や施設、機具(地域の特性等文化・習慣)はどれほどあるか？
- ・ 実際に動くメンバーは、どれほど時間があるか？
- ・ 協力団体や助言者はどれか？
- ・ この地域や時期の特性、文化、習慣から活用できるものは？
- ・ 足りない要素をどう調達するか？

組織メンバーの強みは何か？

【メンバーの強み領域】

- ・ どのメンバー(講師含む)でやるか？
- ・ メンバーは、どんな経験、技術、個性を持っているか？

事業名: キャッチコピー:

夢・目標:

対象:誰を参加者とするか?

プログラムの具体:どうやって実施するか?手段は?

事業概要:何をどのように実施するか?(4Pの視点)

【Product】(趣旨)

【Place】(会場)

【Price】(参加費)

【Promotion】(広報)

現況:今の地域の現状は?
【課題】

【問題】

開催までのプラン:準備から開催までは?
スケジュール等

必要資金:実施にかかる経費は?

リスク:予想されるリスクは?

メンバーの強み:組織の強みは?

ポテンシャル:組織メンバーでできること?

講座4 学習プログラムを企画立案する

何のためにこのプログラムを実施するのか、事業効果を考えてつくってみましょう。

○学習プログラムとは

学習プログラムとは、学習を支援するための計画です。

学習プログラムによって、事業のねらい、実施・展開の過程が客観的に把握でき、また、事業の意義や必要性を学習過程の中で示すことができます。

○学習プログラムの種類

- ・年間計画 1年間に行われるすべての学習機会や学習支援をまとめた実施計画
- ・個別事業計画 個々の事業ごとにつくられる運営計画
- ・アクティビティ 各回ごとの詳細な活動順序や流れが示されたもの

○学習プログラムの立案フロー

年間計画等に基づき、個別の学習プログラムを作成する場合、つぎのことを具体的に決めていきます。

学習プログラムの構成要素

- | | |
|--------------|-------------|
| ①参加対象、規模（定員） | ⑦開設時期、期間 |
| ②事業名 | ⑧講師、指導者 |
| ③事業目標、学習目標 | ⑨必要経費 |
| ④学習内容 | ⑩広報、運営、展開 |
| ⑤学習方法、教材 | ⑪事業評価の視点、指標 |
| ⑥学習場所、学習環境 | |

ステップ1 参加対象の明確化

年代、職業、学習レベル等により対象を細分化し、明確にしましょう。

ステップ2 学習課題の明確化、確認

地域課題、学習者の学習ニーズ等明確にし、確認しましょう。

ステップ3 学習目標の設定

学習目標を焦点化し、学習者のその後の生活や行動に意味のある内容にしましょう。また、学習後の学習が評価できるような目標を設定しましょう。

★目標に対しての評価するシステムづくりを考えておくと計画・実行はスムーズに進行します。

ステップ4 学習内容、学習方法の選択と配列

学習目的や学習課題に応じて、学習内容を選択し、適切な配列を行いましょ。また、学習方法の短所と長所を見極め、学習目的、内容等に合わせて、学習方法を選択しましょ。

★学習の後に学習の成果を生かしやすく、事業の目標達成につながりやすいので、参加型学習（演習、討議、発表など）を含めた講座にしましょ。

ステップ5 学習支援者の決定

講師、ファシリテーター（学習の促進者、進行役）、学習ボランティア等を選定しましょ。

★学習目的、学習内容、対象者、学習課題、展開等について事前打ち合わせを綿密にしましょ。

ステップ6 事業の評価項目、評価指標の作成

事業実施後の評価をどのような視点に基づいて行うか、事業を評価する際の評価項目、評価指標は何を考えましょ。

（例）評価項目、評価指標

新しくできた講座数、地域の活動に参加するようになった人、地域で新たに顔見知りになった人、など

さらに1歩進んで

ステップ7 多様な主体と連携

連携づくりによって、事業自体が「コミュニティづくり」に広がっていきます。

ステップ8 地域の社会教育事業の育成

地域の間関係づくりやまちづくりなどへの現実的な波及や活動などは、年単位で育まれていきます。今年の事業成果は、来年以降の受講者の活動などに表れていくので、単年度計画であっても数年継続を想定しながら事業評価も行い、受講者OB・OGが累積して地域社会を担っていくことができるようにしましょ。

学習プログラム編成のチェック項目

- 講座名：表現がわかりやすいか、親しみやすいか、魅力が伝わるか、など
- 学習内容：内容の選択と配列は適切か。少なすぎ、詰め込みすぎはないか
- 学習方法：実践的な方法（参加型）の活動があるか
- 学習場所、学習環境：学習効果があがる環境になっているか
- 開設時期、期間：時期や長さは適切か
- 広報：講座案内、募集の方法は適切か
- 事業評価：評価指標は何か



講座5 学習方法の選択

学習方法にはさまざまあります。学習内容や対象、目的などに合わせて選択することが大切です。

目的と学習方法の例

①体系的な知識の習得	講義
②態度、意欲の喚起	グループ討議
③共感的な理解の促進	ロールプレイ・事例研究
④合意形成	ランキング
⑤感性的理解の促進	フィールドワーク
⑥創造的な課題解決	ブレインストーミング
⑦新しい発見	シミュレーション
⑧集団による創造的課題解決	KJ法
⑨課題の多様なアプローチ	パネルディスカッション
⑩メディアによる共感的理解	フィルムフォーラム

※これらの様々な学習方法・活動を組み合わせて構成される学習の場を「ワークショップ」と呼びます。ファシリテーターがさまざまな活動を複数組み合わせ、テーマの内容を深めたり、広げたりしながらすすめられます。個人で考えたり、グループで話し合いや作業をしたりする時間も組み合わせます。

上記のうち7つの学習方法について説明します。

○グループ討議

小グループで意見交換や共同作業を行いながらすすめる手法で、「教える・教えられる」という関係で学ぶのではなく、学習者が積極的に他の学習者の意見や発想から学ぶ手法です。

○ロールプレイ・事例研究

学習の内容に応じた場面を想定して、学習者が役割を分担して演技することにより、様々な立場の人の意見や考えを理解し、多様な視点を育てることができる手法です。

(例) 公民館職員の研修の一コマとして

「公民館ってなに」

- ①場面設定をする：小学生に公民館について、分かりやすく説明する
- ②役割を決める：公民館職員 小学生 引率の先生 観察役
- ③演じてみる：小学生「公民館は何をすところですか」
- ④記録する：観察者はやりとりの様子や感想等を記録する
- ⑤振り返り：感想を発表したり、助言者の講評等により振り返りを行う

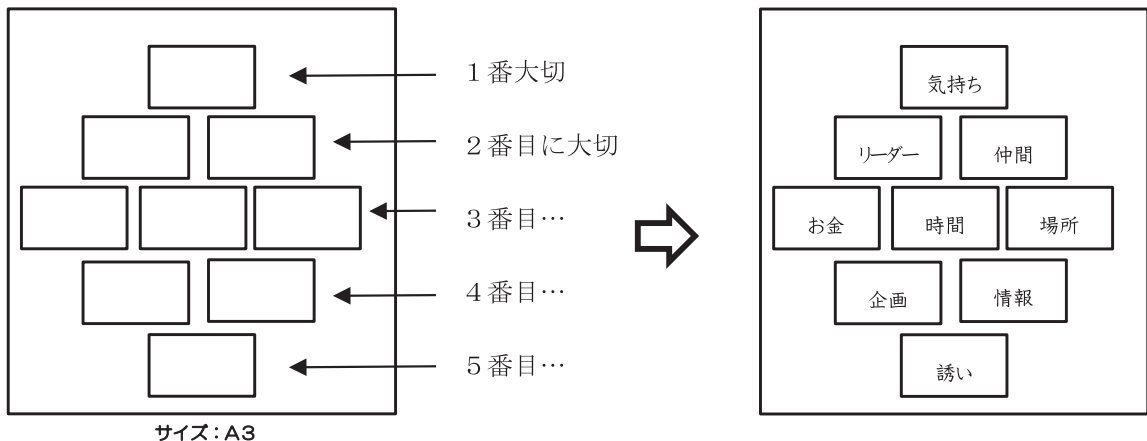
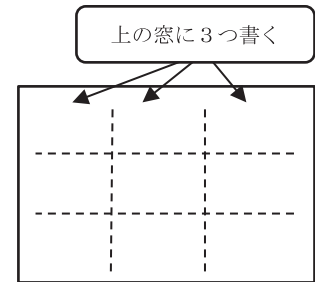
★ロールプレイの前後に講演や講義を設定することにより学習が深まります。

○ランキング

学習者が自分にとっての重要性・必要性にしたがって、ダイヤモンド型やプラミッド型等にランキング（順位づけ）し、その結果について相互に意見交換しながら、グループとしてのランキングをまとめます。多様な見方があることを理解すること、そして、集団の合意形成を図るためのスキルやノウハウを培うトレーニングとなる手法です。

（例）若者を対象とした活動を支援する人財育成の研修の一コマとして
「青年の活動を活発にするためには何が必要だろう」

- ① 9つの窓の用紙に、青年の活動を活発するために必要なアイデアを3つ考え短い言葉で3つ書く。
- ② 相手を探し、互いのアイデアを紹介し合う。参考になるとい思ったら、その言葉を残りの窓に書き入れる。（9つの窓が埋まるまで続ける）
- ③ 数人のグループをつくりダイヤモンドランキングを通してアイデアを分かち合う。
 - i) より必要とされているもの、より効果的なアイデアをグループの意見として9つ選ぶ。
 - ii) 話し合い、合意しながら、9つのアイデアを順位づけ（ランキング）する。



- iii) 順位づけの理由をグループのメンバーが全員説明できるように準備する。
 - iv) グループをバラバラにして、新しい小さなグループをつくり、ダイヤモンドランキングの結果とその理由を紹介し合う。
- ④ 「ふりかえりカード」を書き、自分を見つめ、気づきを確認する。

○フィールドワーク

学習者が、課題に関するテーマを持って現地に出かけ、五感を働かせ、見たり、聞いたり、触れたり、調べたりといった活動を展開することを通して、地域の実状や歴史的経緯に触れる「現地調査」です。ふだん見過ごしてしまっているようなテーマに着目し、地域の課題を発見していく方法です。

実際に地域を歩き、自分の目で見て、耳で聞いて体全体で感じる経験を通じて、様々な切り口を発見することができます。地域課題についても、現実を把握するとともに、過去の人々の生きざまを想像し、事実を事実として自らの中にとり入れることができる手法です。

地域課題に対して学習者の感性を揺さぶる効果的な学習手法の一つといえます。

(例) 地域の活性化に取り組む人財育成の研修の一コマとして

「わが町の財を再発見」

①活動の意義と目的を説明する。

②グループに分かれ、各グループのテーマを決める。

③再発見の旅に出発する。

テーマについて、住民にインタビューする。

記録用にインスタントカメラやデジタルカメラを用意すると、その後の活動に役に立ちます。

④フィールドワークの結果を地図にまとめる。

模造紙に簡単な地図を書いて、そこに、取材したことや写真をもとに財（場所・物・人）を位置づけする。

⑤本日のフィールドワークの成果についてグループで話し合う。

○ブレインストーミング

4つの原則（批判厳禁・自由奔放・質より量・結合組み合わせ）に基づき、自由に空想、連想の連鎖反応を起こしながら、多くのアイデアを出し合う手法です。

進行役のもと、参加者の意見等を記録者が模造紙や黒板に書き出す方法や、参加者に付箋紙などのラベルに書いたものを順番に出し合う方法があります。

(例) 子どもたちの体験活動をサポートする人財育成の研修の一コマとして

「子どもたちの気になること」

①ブレインストーミングのすすめ方を説明する。

②グループ（10人前後）に分かれ、司会・記録・発表者を決める。

③各自にラベル（大きな目付箋紙）を5枚配布する

④各自、まちの気になること（＝課題）を1枚のラベルに1つ（簡潔な言葉）書き出す。

⑤順番に、ラベルを説明しながら模造紙に貼る

同じような考えであれば、それに続けてラベルを貼り出す。

同じような考えのラベルを並べ直したり、組み合わせたりする。

⑥各グループの模造紙等を発表資料として、全体に発表する。

⑦本日の活動にグループで話し合う。

※「〇〇を解決するために」など、課題解決のアイデアを出し合う活動にも使える。

○OKJ法

東京工業大学名誉教授の川喜田二郎氏の考案した問題解決技法。学習者すべてのどのような意見も大切に扱われ、集団で創造的に問題解決を図っていかこうとする手法です。

学習者が様々な知識や経験のもとで発想したアイデアや意見等をラベルやカードを使用して収集します。ラベルやカードを収集したデータを整理して1枚の図に収め、全体を見ながら検討します。収集したデータがすべて生かされて、全体図の中で“自己主張”していることで、思わぬ発想につながる手法です。

○パネルディスカッション

ある特定のテーマ（課題）について、専門的知識を持っている人や、その問題について代表的意見を持っている人がパネルメンバーとして登壇し、コーディネーターの進行に基づき意見発表やメンバー間の討議を行い、会場の学習者との意見交換・討議も行う手法です。



講座6 アイスブレイク

学習者の緊張を解（ほぐ）すために行う活動全般のことをアイスブレイクといいます。アイスブレイク＝氷（不安や緊張）を溶かす。「氷を溶かす」というその言葉通り、緊張を解きほぐすためのウォーミングアップの一つです。

アイスブレイクの後は、抵抗感や緊張感から解放され、安心感が持て、グループワーク等に参加できます。基本は、心をやわらかくし、和やかな雰囲気づくりをすることです。

○どのようなアイスブレイクを選ぶか

見知らぬ者同士がグループワークを行う場合、相手の立場や研修に参加するきっかけ、研修テーマに関する話題などを効率的に話させるようなものが効果的です。

今後、その人とまた会う機会があるかもしれない、情報交換を行う可能性があるなど、ネットワークづくりのためには、相手を覚える自己紹介系がよいでしょう。

長期間の研修では、相手を理解できるものや仲間づくりに関するものがが必要です。

会場や対象、アイスブレイクを行うねらいに合わせて、どのアイスブレイクが効果的かを判断し選択する必要があります。

(例) 自己紹介……名前は事前に各自に書き込んでもらって紹介用名刺を作っておきます。時間を決めて、できるだけ多くの人と名刺交換をします。だれかを見つけたら、「こんにちは。私は〇〇です。」と名刺を差し出し、「私の趣味は・・・です。よろしくお願いします！」などのように、自分をアピールし合い、最後握手をします。

人間ビンゴ…ビンゴのフォーマットに一連の質問（申年の人、北海道出身者、ハンディ20以下のゴルファー、10カ国以上の海外旅行など）が記された用紙を用意します。参加者は、その質問に「はい」と答えられる人を探し、そのマスにサインしてもらい、ビンゴゲームを行います。早くビンゴした人にちょっとした賞品を用意します。

4つの窓……紙を折って四分割し、名前、このまちの好きなところ等について書き込んでもらいます。その後で、この紙をもとに多くの人と自己紹介し合います。

この他にもたくさんのアイスブレイクがあります。青森県総合社会教育センターで作成した「講座や事業で使えるファシリテーションプログラム集」に掲載しております。

ホームページアドレス：<http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/publication.html>

講座7 思いを伝える（プレゼンテーション）

事業を企画し自分たちで資金を、公民館や教育委員会と協働、あるいは、資金的な支援を受けて実施する場合もあります。そのような場合に、協働する相手あるいは支援を受ける相手に自分たちの事業を理解してもらうことが必要になります。

ここでは、プレゼンテーションで大切なポイントはまとめています。

『プレゼンテーション力』というのは「シナリオ能力」、「身体的能力」、「個の発信力」の3つの力のバランスです。

1 シナリオ能力

プレゼンテーションの構成、組み立て、シナリオ、演出、配布資料、プレゼンテーションツールなどです。

(1) ターゲットと意図を明確にする

相手が誰なのかを明確にするだけでも、プレゼンテーションが意識的にも無意識の部分でも違いが出てきます。

(2) プレゼンテーションの全体構成を考える

興味を持ってもらう部分、プレゼンテーションの内容を展開する部分、参考資料や関連して応用展開できる企画の部分など、3つの部分に分けて構成するとテンポの良いプレゼンテーションができます。最初の3分間が勝負です。

(3) 十分な下準備をする

シナリオを書いてプレゼンテーションの練習をし、シナリオを修正して練習を繰り返します。

2 身体的能力

プレゼンテーションする人の声の質や大きさ、発声・滑舌、動きや態度、服装・メイク・髪型などです。

(1) リラックスすることが大切

よい声、聞きやすい声、伝わりやすい声にするは、正しい呼吸法を身につけることが大事です。

(2) 台本を書き、練習する

話の出だしを文字にしてみてください。話ことばをそのまま文字にしてみることで、これがポイントです。台本ができたら、何度も音読して、暗記するくらい、繰り返し練習してみてください。出だしがうまくいっただけで、プレゼンテーションの質にちがいが出てきます。

(3) 声を出して文章を読む

より豊かに伝えるために、アクセント、イントネーション、強調、フレージング（フレーズのきりかた）、間、滑舌、リズムに注意してみましょう。

3 個の発信力

人間性、ポリシー、情熱、エネルギーです。

(1) 人は人に興味がある

プレゼンテーションの内容も重要ですが、プレゼンターにもかなりの興味をもっています。自分らしい方法で「共感」を作り出してください。プレゼンテーションの最終目的は「共感」してもらうことです。

(2) プレゼンテーションはライブ

話し手と聴衆のコミュニケーションがリアルだということ。その関係にエネルギーが生じます。話し手は、聴衆の反応を感じて、さらに熱くアピールしたり、ちがう例を出したり、内容を調整していきます。そして、「共感」を作り出していきます。



講座8 自ら人財を育成する

人財を育成するためには、本プログラムを利用するだけでなく、県総合社会教育センター等が実施する講座に参加することも大切です。

さらに、地域に根ざした人財を育成するためには、公民館職員や地域住民を対象にした研修を、公民館や市町村教育委員会が自ら企画して実施することも重要です。

参考として、4つのプログラムを紹介します。

☆学習支援者養成プログラム（対象：公民館職員）

回	方法	テーマ・内容	講師等
1	学習プログラムの理解	アイスブレイク、グループ討議、発表と意見交換、講義を行う。	県教育委員会職員 教育事務所職員
2	アイスブレイクを学ぶ	動的なもの、静的なもの、学習の目的に応じて使い分けることができるようにする。	県教育委員会職員 教育事務所職員
3	合意形成の手法を学ぶ	各種の手法の目的と意義を理解する。	県教育委員会職員 教育事務所職員
4	ワークショップの展開方法を学ぶ	ワークショップの進行と学習成果をまとめる技法を学びます。	県教育委員会職員 教育事務所職員
5	ワークショップを企画する	学習成果を生かし、自分独自のワークショップを企画し、発表します。	県教育委員会職員 教育事務所職員

☆公民館の講座を運営する人財の育成プログラム（対象：公民館職員）

方法	テーマ・内容	講師等
アイスブレイク	趣味等を書いた名刺カードを作成し交換する。	公民館職員 教育事務所職員
グループワーク	今日学びたいこと・知りたいこと書き出し、グループ内で共有する。	公民館職員 教育事務所職員
講義	講座運営のポイントについて説明する。	公民館職員 県教育委員会職員 教育事務所職員
演習	企画書を作成する。	公民館職員 教育事務所職員
グループ発表	作成した企画書を発表する。	公民館職員 教育事務所職員
講評	まとめ	公民館職員 県教育委員会職員 教育事務所職員

※1日日程

☆子どもたちの体験活動をサポートする人財育成プログラム（対象：公民館職員、地域住民）

回	方法	テーマ・内容	講師等
1	講義	体験活動の必要性・留意点等について説明する。	公民館職員 県教育委員会職員 教育事務所職員
2	アイスブレイク・レクリエーション実習	アイスブレイク・レクリエーションの手法について学ぶ。	公民館職員 教育事務所職員
3	フィールドワーク	実際に体験活動をする。	公民館職員 教育事務所職員
4	実践実習	実際に子どもたちと一緒に活動する。	公民館職員 教育事務所職員

☆まちづくりプログラム（対象：地域住民）

回	方法	テーマ・内容	講師等
1	課題の検討	アイスブレイク後グループに分かれ、KJ法により課題検討を行い、発表する。	公民館職員 地域住民
2	フィールドワーク（1回目）	フィールドワークを行い、成果を整理する。	公民館職員 地域住民
3	アイデア出し	フィールドワークの課題を整理し、課題解決のアイデアを協議し、その結果をまとめ発表する。 また、各自でヒアリング等行う。	公民館職員 地域住民
4	フィールドワーク（2回目）	まとめた成果を共有し、アイデアの確認をする。 プログラムの作成と発表会の準備を行う。	公民館職員 地域住民
5	発表会	各グループでプログラムを発表する。 まとめ	公民館職員 県教育委員会職員 教育事務所職員

公民館でまちをイキイキ！
地域で考え行動する公民館機能活性化事業
成果報告書

発行年月 平成27年3月
発行 青森県教育庁生涯学習課
〒030-8540 青森市新町二丁目3番1号
Tel 017-734-9890 Fax 017-734-8272
